

専修以外の基礎科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
基礎海外研修Ⅰ	基礎海外研修Ⅰ	3	文学部学務教育室長	通年集中 その他 連講	
基礎海外研修Ⅱ	基礎海外研修Ⅱ	6	文学部学務教育室長	通年集中 その他 連講	
人文統計学	統計学の基礎	2	木村 邦博	前期 水曜日 2講時	
人文統計学	推測統計と多変量解析の基礎	2	木村 邦博	後期 水曜日 2講時	
人文情報処理	コンピュータを活用したデータ処理と 情報発信	2	湊 信吾	前期 金曜日 2講時	
英語演習	英文読解演習(1)	2	三枝和彦	前期 火曜日 4講時	
英語演習	英文読解演習(2)	2	三枝和彦	後期 火曜日 4講時	
高等英文解釈法	英文解釈の技法	2	鈴木 亨	前期 金曜日 2講時	
高等英文解釈法	英文解釈の技法	2	鈴木 亨	後期 金曜日 2講時	
英語論文作成法	Academic Writing I	2	マックス・フィリップス	前期 水曜日 2講時	
英語論文作成法	Academic Writing II	2	マックス・フィリップス	後期 水曜日 2講時	
ギリシャ語	ホメロス『イリアス』演習	2	尾園 絢一	前期 金曜日 3講時	
ギリシャ語	古典ギリシャ語文法初級	2	尾園 絢一	前期 金曜日 1講時	
ギリシャ語	ホメロス『イリアス』演習	2	尾園 絢一	後期 金曜日 3講時	
ギリシャ語	古典ギリシア語文法初級	2	尾園 絢一	後期 金曜日 1講時	
ラテン語	ラテン語原典講読	2	荻原 理	前期 火曜日 3講時	
ラテン語	ラテン語原典講読	2	荻原 理	後期 火曜日 3講時	
ラテン語	ラテン語文法入門・基礎文法	2	宮崎 正美	前期 金曜日 2講時	
ラテン語	ラテン語文法	2	宮崎 正美	後期 金曜日 2講時	
サンスクリット語	サンスクリット語基礎演習	2	笠松 直	前期 木曜日 3講時	
サンスクリット語	サンスクリット語基礎演習	2	笠松 直	後期 木曜日 3講時	
中国語	中国語中級会話	2	張 佩茹	前期 水曜日 2講時	
中国語	中国語中級会話	2	張 佩茹	後期 水曜日 2講時	

専修以外の基礎科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
朝鮮語	韓国語入門	2	権 来順	前期 水曜日 2 講時	
朝鮮語	韓国語初級	2	権 来順	後期 水曜日 2 講時	
イタリア語	イタリア語初級（前期）	2	フォンガロ エンリコ	前期 木曜日 3 講時	
イタリア語	イタリア語初級（後期）	2	フォンガロ エンリコ	後期 木曜日 3 講時	
イタリア語	イタリア語中級（前期）	2	フォンガロ エンリコ	前期 木曜日 4 講時	
イタリア語	イタリア語中級（後期）	2	フォンガロ エンリコ	後期 木曜日 4 講時	
イタリア語	イタリア語上級（前期）	2	フォンガロ エンリコ	前期 水曜日 4 講時	
イタリア語	イタリア語上級（後期）	2	フォンガロ エンリコ	後期 水曜日 4 講時	
専門中国語	中国語中級読解	2	張 佩茹	前期 火曜日 3 講時	
専門中国語	中国語中級読解	2	張 佩茹	後期 火曜日 3 講時	
専門ドイツ語	ドイツ語読解力の養成とドイツ語基礎 の徹底	2	松崎 裕人	後期 月曜日 1 講時	
専門フランス語	時事フランス語	2	黒岩 卓	前期 月曜日 4 講時	
専門フランス語	Expression française orale et écrite	2	メヴェル ヤン	後期 水曜日 5 講時	
漢文講読	漢文訓読入門(講読編1)	2	菅原 尚樹	前期 金曜日 3 講時	
漢文講読	漢文訓読入門(講読編2)	2	菅原 尚樹	後期 金曜日 3 講時	
人文情報処理	コンピュータを活用したデータ処理と 情報発信	2	湊 信吾	後期 金曜日 2 講時	

科目名：基礎海外研修 I / Overseas Study (Introductory Seminar) I

曜日・講時：通年集中 その他 連講

Semester：通年 単位数：3

担当教員：文学部学務教育室長

コード：LB98836 科目ナンバリング：LHM-OAR903J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：基礎海外研修 I

2. Course Title (授業題目)：Overseas Study (Introductory Seminar) I

3. 授業の目的と概要：この授業は、3 か月以上の海外留学を行うものを対象とし、その海外留学経験を深化させることを目的とする。

海外留学中に月一回程度のレポートを提出し（電子メール）、帰国後には留学で学んだことを整理し、総合的に振り返るレポートを提出してもらおう。また面接を実施し、留学で得た知見を発表してもらおう。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course is aimed at students who will be studying abroad for 3 months or more and is intended to deepen and enrich the experience of studying overseas. Students are required to submit monthly reports (by email) during their time as exchange students and a comprehensive report on the knowledge they gained abroad after they return. Interviews will also be conducted and students will give a presentation on their experiences abroad.

5. 学習の到達目標：

海外留学で得た経験と知識をきちんと表現できるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will learn to properly express their experiences studying abroad and the knowledge that they gained.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. レポート作成とそれに基づいた指導 1
2. レポート作成とそれに基づいた指導 2
3. レポート作成とそれに基づいた指導 3
4. レポート作成とそれに基づいた指導 4
5. レポート作成とそれに基づいた指導 5
6. レポート作成とそれに基づいた指導 6
7. レポート作成とそれに基づいた指導 7
8. レポート作成とそれに基づいた指導 8
9. レポート作成とそれに基づいた指導 9
10. レポート作成とそれに基づいた指導 10
11. レポート作成とそれに基づいた指導 11
12. レポート作成とそれに基づいた指導 12
13. レポート作成とそれに基づいた指導 13
14. 面接による習熟度確認とそれに基づく指導 1
15. 面接による習熟度確認とそれに基づく指導 2

8. 成績評価方法：

レポート[50%]・面接試験[50%]

9. 教科書および参考書：

なし。

10. 授業時間外学習：留学先の大学で学んだことと共に、日々の暮らしを通じ、日本との文化的な違い・驚きを、きちんと記録しておくこと。

Students will keep a record of both the things they learn at the foreign university and the cultural differences and surprising things they experience in their daily lives.

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

この授業は3ヶ月以上の海外留学を行って帰国したものを対象とする。

海外留学に関連した授業としては「基礎海外研修 I」、「基礎海外研修 II」、「発展海外研修 I」、「発展海外研修 II」があるが、合計6単位を上限とする。

This course is aimed at students who have returned from 3 months or more of student exchange. The courses connected to overseas study are "Overseas Study (Introductory Lecture) I", "Overseas Study (Introductory Lecture) II", "Overseas Study (Advanced Seminar) I" and "Overseas Study (Advanced Seminar) II".

科目名：基礎海外研修Ⅱ／ Overseas Study (Introductory Seminar) II

曜日・講時：通年集中 その他 連講

Semester：通年 単位数：6

担当教員：文学部学務教育室長

コード：LB98837 科目ナンバリング：LHM-OAR904J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：基礎海外研修Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：Overseas Study (Introductory Seminar) II

3. 授業の目的と概要：この授業は、6か月以上の海外留学を行うものを対象とし、その海外留学経験を深化させることを目的とする。

海外留学中に月一回程度のレポートを提出し（電子メール）、帰国後には留学で学んだことを整理し、総合的に振り返るレポートを提出してもらう。また面接を実施し、留学で得た知見を発表してもらう。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course is aimed at students who will be studying abroad for 6 months or more and is intended to deepen and enrich the experience of studying overseas. Students are required to submit monthly reports (by email) during their time as exchange students and a comprehensive report on the knowledge they gained abroad after they return. Interviews will also be conducted and students will give a presentation on their experiences abroad.

5. 学習の到達目標：

海外留学で得た経験と知識をきちんと表現できるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will learn to properly express their experiences studying abroad and the knowledge that they gained.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. レポート作成とそれに基づいた指導 1
2. レポート作成とそれに基づいた指導 2
3. レポート作成とそれに基づいた指導 3
4. レポート作成とそれに基づいた指導 4
5. レポート作成とそれに基づいた指導 5
6. レポート作成とそれに基づいた指導 6
7. レポート作成とそれに基づいた指導 7
8. レポート作成とそれに基づいた指導 8
9. レポート作成とそれに基づいた指導 9
10. レポート作成とそれに基づいた指導 10
11. レポート作成とそれに基づいた指導 11
12. レポート作成とそれに基づいた指導 12
13. レポート作成とそれに基づいた指導 13
14. 面接による習熟度確認とそれに基づく指導 1
15. 面接による習熟度確認とそれに基づく指導 2

8. 成績評価方法：

レポート[50%]・面接試験[50%]

9. 教科書および参考書：

なし。

None.

10. 授業時間外学習：留学先の大学で学んだことと共に、日々の暮らしを通じ、日本との文化的な違い・驚きを、きちんと記録しておくこと。

Students will keep a record of both the things they learn at the foreign university and the cultural differences and surprising things they experience in their daily lives.

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

この授業は6ヶ月以上の海外留学を行って帰国したものを対象とする。

海外留学に関連した授業としては「基礎海外研修Ⅰ」、「基礎海外研修Ⅱ」、「発展海外研修Ⅰ」、「発展海外研修Ⅱ」があるが、合計6単位を上限とする。

This course is aimed at students who have returned from 6 months or more of student exchange. The courses connected to overseas study are "Overseas Study (Introductory Lecture) I", "Overseas Study (Introductory Lecture) II", "Overseas Study (Advanced Seminar) I" and "Overseas Study (Advanced Seminar) II".

科目名：人文統計学／ Statistics

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：木村 邦博

コード：LB33204 科目ナンバリング：LHM-PRI201J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：統計学の基礎

2. Course Title (授業題目) : Elementary Statistics

3. 授業の目的と概要：統計学の基礎を学ぶ。

特に、データ収集・測定の考え方の基本を理解し、代表値や変動の測度の算出、探索的データ解析、クロス集計表など、記述統計学の手法を身につける。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course serves as an introductory course on elementary statistics for social data analysis, which should be useful for students majoring in humanities and social sciences. It covers various topics in descriptive statistics to help students understand the basics of measurement and data analysis, ranging from central tendency, measures of variation to crosstabulation.

5. 学習の到達目標：

官庁統計や簡単な調査報告・論文を読めるようになるための基礎的な統計学について学ぶ。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : Students learn about elementary statistical methods for interpreting academic and governmental reports that contain statistics and graphs.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目の授業は Google Classroom (Meet を含む) を利用して実施します。
Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. データと測定(1)
2. データと測定(2)
3. 度数分布と比率(1)
4. 度数分布と比率(2)
5. 代表値と変動(1)
6. 代表値と変動(2)
7. グラフによるデータの表現(1)
8. グラフによるデータの表現(2)
9. クロス集計表(1)
10. クロス集計表(2)
11. 関連の測度(1)
12. 関連の測度(2)
13. 3変数間の関係を考える (因果関係、相関関係、疑似相関) (1)
14. 3変数間の関係を考える (因果関係、相関関係、疑似相関) (2)
15. まとめ

8. 成績評価方法：

レポート (10 回) による。

9. 教科書および参考書：

教科書：ボンシュテット&ノーキ (海野他訳) 『社会統計学—社会調査のためのデータ分析入門』 ハーベスト社

10. 授業時間外学習：教科書と補足資料 (Google Classroom で配付) で予習・復習をする。

教科書の各章末にある「一般的問題」のうち指定されたものについて、レポートを作成し、Google Classroom で提出する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

- (1) 人文統計学 (推測統計と多変量解析の基礎) とあわせて受講することが望ましい。
- (2) 社会調査士資格認定標準科目 C に対応。
- (3) 受講希望者は初回の授業までに必ず Google Classroom 上で授業計画・実施方法等を確認すること。

科目名：人文統計学／ Statistics

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

Semester：4 単位数：2

担当教員：木村 邦博

コード：LB43206 科目ナンバリング：LHM-PRI201J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：推測統計と多変量解析の基礎

2. Course Title (授業題目)：Statistical Inference and Multivariate Analysis

3. 授業の目的と概要：より高度な統計学の基礎を学ぶ。

特に、確率分布と統計的推測の考え方や、平均・比率の差の検定・推定、分散分析、相関分析、回帰分析、パス解析などの手法について理解する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course serves as an advanced course on statistics for social data analysis, which should be useful for students majoring in humanities and social sciences. It covers various topics in statistical inference and bivariate/multivariate analyses to help students understand the concepts of estimation, significance tests, analysis of variance, correlation, and regression.

5. 学習の到達目標：

「統計学の基礎」をふまえて、より高度な統計的方法を理解するための基本事項について学ぶ。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students learn about advanced statistical methods including statistical inference and bivariate/multivariate analyses.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目の授業は Google Classroom (Meet を含む) を利用して実施します。
Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. 統計的推測と仮説検定(1)：確率論の基礎
2. 統計的推測と仮説検定(2)：統計的推定
3. 統計的推測と仮説検定(3)：統計的検定の理論
4. 2 平均値の差の検定(1)
5. 2 平均値の差の検定(2)
6. 複数平均値の差の検定(1)
7. 複数平均値の差の検定(2)
8. 2 変数の関連の分析：クロス集計表における関連の測度
9. 2 変数の関連の分析：相関係数
10. 2 変数の関連の分析：偏相関、因果推論、生態学的誤謬
11. 回帰分析の基礎(1)
12. 回帰分析の基礎(2)
13. 重回帰分析(1)
14. 重回帰分析(2)
15. 因果モデルとパス分析の基礎

8. 成績評価方法：

レポート(10 回)による。

9. 教科書および参考書：

教科書：ボンシュテット&ノーキ(海野他訳)『社会統計学—社会調査のためのデータ分析入門』ハーベスト社

10. 授業時間外学習：教科書と補足資料(Google Classroom で配付)で予習・復習をする。

教科書の各章末にある「一般的問題」のうち指定されたものについて、レポートを作成し、Google Classroom で提出する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

- (1) 人文統計学(統計学の基礎)とあわせて受講することが望ましい。
- (2) 社会調査士資格認定標準科目 D に対応。
- (3) 受講希望者は初回の授業までに必ず Google Classroom 上で授業計画・実施方法等を確認すること。

科目名：人文情報処理／ Information Processing for the Humanities

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

Semester：3 単位数：2

担当教員：湊 信吾

コード：LB35210 科目ナンバリング：LHM-HUI201J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：コンピュータを活用したデータ処理と情報発信

2. Course Title (授業題目) : Data processing and information providing with a computer

3. 授業の目的と概要：この授業では Excel などのアプリケーションやプログラミング言語を使用して、データの分析や可視化、情報発信を行えるようになるための基本的な情報処理技術を実習を通して習得してもらうことを目的としている。

以下の予定で講義および実習を行う。内容を変更する場合には授業中に連絡する。

- Excel では表を使用したデータ処理について練習する。
- R を使用したデータ解析の方法、グラフの表現について練習する。
- インターネットで文書を公開するには Web ページを作成する。Web ページを作るためのプログラミング言語として HTML、CSS および JavaScript の基本について学ぶ。
- SQL を使用したデータベースのプログラミングについて練習する。
- プログラミング言語 Python を用いてプログラミングの練習を行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : The objective of the course is to familiarise students with data processing, data visualization, web programming, and python programming.

- Spreadsheets and VBA programming with MS Excel
- Introduction to data processing with R
- Creating MS Powerpoint slides for presentation
- Introduction to relational database and SQL programming
- Web programming with HTML, CSS, JavaScript
- Introduction to Python programming

5. 学習の到達目標：

- Excel を使用した実習により手軽にデータ分析を行うことができるようになる。
- R を使用して基本的なデータ解析やグラフの作成ができるようになる。
- PowerPoint のスライド作成を通して発表用の資料を簡単に作成することができるようになる。
- Web ページを作成することで情報を外部に公開する方法について理解を深める。
- SQL のプログラミングを使用し汎用的にデータベースを操作できるようになる。
- プログラミング言語 Python を使用しプログラミングの楽しさを体験してもらう。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : After completion of the course students are expected to be able to:

- Use Data processing and data visualization with MS Excel and R
- Create effective slides for presentation
- Understand the basic concepts of relational database and SQL programming
- Design web pages with HTML, CSS, JavaScript
- Create basic program in python

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーションとして授業の概要、評価の方法、テキストの閲覧方法、欠席時の対応について説明
2. Excel (表計算の基本)
3. Excel (グラフの作成)
4. Excel (テキストファイルの扱い方)
5. Excel (組み込み関数の応用)
6. Excel (VBA プログラミング)
7. PowerPoint を使用したスライドの作成
8. R を利用したデータ解析とグラフの作成
- 9～12. HTML、CSS、JavaScript を使用した Web ページの作成 (その 1～その 4)
13. SQL を使用したデータベースの操作
- 14、15. プログラミング言語 Python を使用したプログラミング (基本とライブラリの利用)

授業は前半、実習を交えながら解説を行う。後半、課題に取り組んでもらう。

8. 成績評価方法：

毎回、レポートを提出してもらう。レポートの内容および提出日時により評価を決定する。

9. 教科書および参考書：

毎週、インターネット経由でテキストを公開する。参考書についてはテキストおよび授業で紹介する。

1 0. 授業時間外学習：＜事前学習＞毎週、インターネット経由でテキストを公開するのでそれを見て予習をしてもらいたい。また、テキスト中の語句でわからないところがあれば参考書などを利用して勉強しておいてほしい。
＜事後学習＞実習後もう一度振り返り、再度試してみることで確実に授業で行ったことを身につけることができる。また、授業中に紹介した参考書でさらに勉強することで知識を深めることができる。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

1 2. その他：

連絡用のメールアドレス、テキスト公開用の URL についてはオリエンテーション時に説明する。

科目名：英語演習／ Seminar in Practical English

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：三枝和彦

コード：LB32401 科目ナンバリング：LHM-ENG201J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：英文読解演習（1）
2. Course Title (授業題目)：Seminar in reading skills in English (1)
3. 授業の目的と概要：英文を正確に読み、理解することができるようになるために、英語で書かれた文献を精読していく。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course aims to train students to read English passages correctly through reading texts written in English intensively.
5. 学習の到達目標：
 - (1) 英文を正確に日本語に訳すことができるようになる。
 - (2) 読んだ英文を要約することができるようになる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：1. Students will be able to translate English passages into Japanese correctly.
2. Students will be able to make a summary of what they read.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 English today (1)
 - 第3回 English today (2)
 - 第4回 English today (3)
 - 第5回 Forecasting (1)
 - 第6回 Forecasting (2)
 - 第7回 Forecasting (3)
 - 第8回 Global trends (1)
 - 第9回 Global trends (2)
 - 第10回 Global trends (3)
 - 第11回 Impacts on English (1)
 - 第12回 Impacts on English (2)
 - 第13回 Impacts on English (3)
 - 第14回 English in the future (1)
 - 第15回 English in the future (2)
8. 成績評価方法：

授業への参加 (60%)、提出課題 (40%)
9. 教科書および参考書：

David Graddol, The Future of English?, The British Council, 1997. (使用するテキストはデータを配付します)
10. 授業時間外学習：必ず予習をすること。また、復習をして知識の定着を図ること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
12. その他：

科目名：英語演習／ Seminar in Practical English

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：三枝和彦

コード：LB42402 科目ナンバリング：LHM-ENG201J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：英文読解演習（2）
2. Course Title (授業題目)：Seminar in reading skills in English (2)
3. 授業の目的と概要：英文を正確に読み、理解することができるようになるために、英語で書かれた文献を精読していく。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course aims to train students to read English passages correctly through reading texts written in English intensively.
5. 学習の到達目標：
 - (1) 英文を正確に日本語に訳すことができるようになる。
 - (2) 読んだ英文を要約することができるようになる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：1. Students will be able to translate English passages into Japanese correctly.
2. Students will be able to make a summary of what they read.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 The Mother of All Networks (1)
 - 第3回 The Mother of All Networks (2)
 - 第4回 Strange, Fierce Fire (1)
 - 第5回 Strange, Fierce Fire (2)
 - 第6回 Electric Skeptics (1)
 - 第7回 Electric Skeptics (2)
 - 第8回 The Thrill Electric (1)
 - 第9回 The Thrill Electric (2)
 - 第10回 Wiring the World (1)
 - 第11回 Wiring the World (2)
 - 第12回 Steam-Powered Messages (1)
 - 第13回 Steam-Powered Messages (2)
 - 第14回 Codes, Hackers, and Cheats (1)
 - 第15回 Codes, Hackers, and Cheats (2)
8. 成績評価方法：

授業への参加（60%）、提出課題（40%）
9. 教科書および参考書：

Tom Standage, The Victorian Internet, Walker & Company, 2007. (使用するテキストはデータを配付します)
10. 授業時間外学習：必ず予習をすること。また、復習をして知識の定着を図ること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
12. その他：

科目名：高等英文解釈法／ Advanced English for Intensive Reading

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：鈴木 亨

コード：LB35205 科目ナンバリング：LHM-ENG202J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：英文解釈の技法

2. Course Title (授業題目)：Reading Skills in English

3. 授業の目的と概要：様々なスタイルの英文テキスト（小説、エッセイ、評論、映画脚本、歌詞、新聞・雑誌記事など）を素材に、実践的な英語の読解力を養成する。文及びパラグラフにおける構造的な特徴に注意して、正確な読解に取り組むことが求められる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course exposes students to various types of reading materials in English such as novels, articles, essays, movie scripts, and song lyrics to broaden their reading experiences with advanced vocabulary and genre-specific characteristics. Students are required to read texts with careful attention to structural aspects of both sentences and paragraphs.

5. 学習の到達目標：

文章の構成における論理的かつ構造的な特徴をきちんと把握し、様々な英文スタイルの特性に応じて、必要で正確な読解ができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course is designed to develop reading skills to understand various types of texts written in English. Such reading skills will require a proper understanding of logical and structural aspects of the text at both the sentence level and paragraph level as well as genre-specific characteristics.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション
2. Judy Moody Gets Famous
3. Akeelah and the Bee
4. What I Wish I Knew When I Was 20
5. How Pleasure Works (1)
6. How Pleasure Works (2)
7. How Pleasure Works (3)
8. State of the Union
9. The Guardian article on Greta Thunberg
10. Never Let Me Go (1)
11. Never Let Me Go (2)
12. Song Lyrics
13. Reclaiming Conversation (1)
14. Reclaiming Conversation (2)
15. まとめ解説と学期末試験

8. 成績評価方法：

学期末試験（オンライン授業の場合は学期末レポート）および授業ごとに提出してもらうミニ課題（予習課題：内容は適宜指示する）に基づいて、授業内容の理解度を総合的に評価する。

9. 教科書および参考書：

使用するテキストはあらかじめ配布する。

10. 授業時間外学習：テキストを読んで、その内容についての質疑応答や議論に備える。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

12. その他：

辞書を持参すること。

科目名：高等英文解釈法／ Advanced English for Intensive Reading

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：鈴木 亨

コード：LB45202 科目ナンバリング：LHM-ENG202J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：英文解釈の技法

2. Course Title (授業題目)：Reading Skills in English

3. 授業の目的と概要：様々なスタイルの英文テキスト（小説、エッセイ、評論、映画脚本、歌詞、雑誌記事など）を素材に、実践的な英語の読解力を養成する。文及びパラグラフにおける構造的な特徴に注意して、正確な読解に取り組むことが求められる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course exposes students to various types of reading materials in English such as novels, articles, essays, movie scripts, and song lyrics to broaden their reading experiences with advanced vocabulary and genre-specific characteristics. Students are required to read texts with careful attention to structural aspects of both sentences and paragraphs.

5. 学習の到達目標：

文章の構成における論理的かつ構造的な特徴をきちんと把握し、様々な英文スタイルの特性に応じて、必要で正確な読解ができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course is designed to develop reading skills to understand various types of texts written in English. Such reading skills will require a proper understanding of logical and structural aspects of the text at both the sentence level and paragraph level as well as genre-specific characteristics.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション
2. Thinking about Thinking
3. 11/22/63 (1)
4. 11/22/63 (2)
5. The Fall of Language in the Age of English (1)
6. The Fall of Language in the Age of English (2)
7. Olive Kitteridge (1)
8. Olive Kitteridge (2)
9. What Money Can't Buy (1)
10. What Money Can't Buy (2)
11. What Money Can't Buy (3)
12. Song Lyrics
13. Before Sunrise (1)
14. Before Sunrise (2)
15. まとめの解説と学期末試験

8. 成績評価方法：

学期末試験（オンライン授業の場合は学期末レポート）および授業ごとに提出してもらうミニ課題（予習課題：内容は適宜指示する）に基づいて、授業内容の理解度を総合的に評価する。

9. 教科書および参考書：

使用するテキストはあらかじめ配布する。

10. 授業時間外学習：テキストを読んで、その内容についての質疑応答や議論に備える。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

辞書を持参すること。

科目名：英語論文作成法／ Creative Writing

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：マックス・フィリップス

コード：LB53207 科目ナンバリング：LHM-ENG203E 使用言語：英語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Academic Writing I

2. Course Title (授業題目)：Academic Writing I

3. 授業の目的と概要：This course is an introduction to the academic writing process. Students will learn: a) correct format for writing essays, b) organization for different essay types, c) strategies for: pre-writing, revising and proofreading, and improving the readability of their writing and d) correct sentence and paragraph structures that meets the expectations of their target audience.

The content of lectures will be as listed (elsewhere), however you can expect to submit some writing every week, except for the first class and on workshop days.

NOTE about Distance Education classes vs. Traditional classes - due to the nature of distance education classes, I am developing 2 'streams' which are similar in content, but different in method of teaching. The rationale is that if classes were to begin traditionally (or vice versa) and then switch to the other, the transition would be seamless. As such, it's reasonable to expect some challenges in how classes are conducted. If you have any concerns (or suggestions for improvement), you can contact me at anytime via email and I will entertain your ideas - however I may not implement them, for various reasons.

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course is an introduction to the academic writing process. Students will learn: a) correct format for writing essays, b) organization for different essay types, c) strategies for: pre-writing, revising and proofreading, and improving the readability of their writing and d) correct sentence and paragraph structures that meets the expectations of their target audience.

The content of lectures will be as listed (elsewhere), however you can expect to submit some writing every week, except for the first class and on workshop days.

NOTE about Distance Education classes vs. Traditional classes - due to the nature of distance education classes, I am developing 2 'streams' which are similar in content, but different in method of teaching. The rationale is that if classes were to begin traditionally (or vice versa) and then switch to the other, the transition would be seamless. As such, it's reasonable to expect some challenges in how classes are conducted. If you have any concerns (or suggestions for improvement), you can contact me at anytime via email and I will entertain your ideas - however I may not implement them, for various reasons.

5. 学習の到達目標：

Students will learn that because English writing is a process, not a product (although the process leads to a product), organizational expectations must be met. The course helps students meet those expectations by teaching how to logically organize writing

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will learn that because English writing is a process, not a product (although the process leads to a product), organizational expectations must be met. The course helps students meet those expectations by teaching how to logically organize writing.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) Course Introduction; Hand-written & Types Formats; Plagiarism; Capitalization Rules
- 2) Essay 1 Assignment; Introduction to English Writing; Pre-writing Strategies
- 3) Basic Sentence Structure; Parallelism Rules
- 4) Writing an Outline; Basic Paragraph Structure
- 5) Basic Essay Structure
- 6) Introduction to Peer Review, Revision, and Proofreading
- 7) Workshop 1 (Rough Draft of Essay 1); Essay 2 Assignment
- 8) Introduction and Conclusion Writing; Essay 3 Assignment
- 9) Understanding Logic, Audience, Tone; Organization 1 - Compare/Contrast
- 10) Organization 2 - Chronological Order
- 11) Organization 3 - Cause/Effect
- 12) Workshop 2 (E2 one-on-one)
- 13) Effective Thesis Statement Writing; Gender Neutral Language
- 14) Workshop 3
- 15) Semester Exam

8. 成績評価方法：

Final grade to be determined by: homework, score earned on submitted essays, and workshop participation.

9. 教科書および参考書：

Course syllabus based on "Discoveries in Academic Writing," by Barbara Harris Leonhard and "Teaching Academic Writing" by Eli Hinkel.

10. 授業時間外学習： Attendance is mandatory for all classes. You will be automatically expelled if you have more than 2 unexcused absences. No auditors permitted.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

科目名：英語論文作成法／ Creative Writing

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：マックス・フィリップス

コード：LB43202 科目ナンバリング：LHM-ENG203E 使用言語：英語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Academic Writing II

2. Course Title (授業題目)：Academic Writing II

3. 授業の目的と概要：This course is a continuation of AWI, therefore, the prerequisite for entering AWII is satisfactory completion of AWI. (Requests for a waiver must be made to the professor prior to admission to the course.) Student will study the research process and how to organize research into a cohesive, logically organized paper, with a special focus on proper format and citation of source material.

The class is a mix of lecture and ‘in-class’ assignments designed to help you THINK. Deep thinking about something you WILL do is far more difficult than simply putting a pen to paper and writing whatever comes to your mind (although that, too, is challenging - if you’ve never done it).

Assuming classes are conducted as ‘distance education’ type classes, you can expect a mix of pre-recorded lectures and live classes. [If classes are conducted traditionally (live and in a classroom) the contents will be similar, but naturally, the method of teaching will be different.

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Students will do original research and write a fully documented research paper.

5. 学習の到達目標：

Students will do original research and write a fully documented research paper.

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will do original research and write a fully documented research paper.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) Course Introduction; The Research Process
- 2) Choosing a Topic; Identifying Potential Resources
- 3) Gathering Source Material - Evaluating Sources
- 4) Note-Taking
- 5) Using the Internet for Research
- 6) Considering Organization
- 7) How to Organize Notes / Write Outline
- 8) Workshop 1 (Outline - rough draft)
- 9) Integrating Source Material; First Draft Writing
- 10) Understanding Citations; Documenting Sources In-text
- 11) Paper Format; Documenting Sources Post-text
- 12) Workshop 2 (rough draft of main body)
- 13) Writing Introduction and Conclusion for Research Papers
- 14) Writing Workshop 3 (rough draft of paper)
- 15) Abstract Writing

8. 成績評価方法：

Final grade to be determined by: research paper, and workshop participation.

9. 教科書および参考書：

Course syllabus based, in part, on: MLA Style Manual and Guide to Scholarly Publishing 3rd Edition.

10. 授業時間外学習：Attendance is mandatory for all classes. You will be automatically expelled from the course if you have more than 2 unexcused absences. No auditors.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

科目名：ギリシャ語 / Greek

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：尾園 絢一

コード：LB35304 科目ナンバリング：LHM-OFL201J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ホメロス『イリアス』演習

2. Course Title (授業題目)：Seminar on Homer's Iliad

3. 授業の目的と概要：ギリシア最古の文学作品であり、インド・ヨーロッパ語比較言語学における第 1 級の資料でもあるホメロスの叙事詩を講読する。トロイア戦争を舞台にした『イリアス』を第 18 巻から講読する。講読では、受講者に訳してもらい、教員が研究書(Rix, Historische Grammatik des Griechischen; Risch, Wortbildung der homerischen Sprache; Frisk, Griechisches Etymologisches Wörterbuch 等)を用いて、語形一つ一つについて音韻、活用、造語法、語源、アイオリス、イオニア、アッティカ諸方言の特徴などの視点から解説する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The oldest Greek literary works, Homer's Iliad and Odyssey, are one of the most important texts in Indo-European linguistics as well as in Greek literature. In this semester we will read the book 18 of the Iliad, which is set during the Trojan War. In the reading session, participants will translate the text, and the instructor will explain every word from aspects such as phonology, flexion, word-formation, etymology, and dialectic peculiarities (Aeolic, Ionic, Attic), by using references such as Rix, Historische Grammatik des Griechischen; Risch, Wortbildung der homerischen Sprache; Frisk, Griechisches Etymologisches Wörterbuch.

5. 学習の到達目標：

- ・ホメロス叙事詩を訳することができるようになる
- ・語形を文法的・語源的に分析できるようになる
- ・ギリシア語歴史文法の基礎を習得する
- ・辞書、文法書、専門書を使いこなすようになる

6. Learning Goals (学修の到達目標)：- Being able to translate Homer's epic poems.

- Being able to analyze every word in the text grammatically and etymologically.
- Gaining basic understanding of Greek historical grammar
- Learning how to use dictionaries, reference grammars, and relevant references.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション、インド・ヨーロッパ語族とギリシア語派、ホメロス叙事詩の言語、韻律と音読
2. 『イリアス』 XVIII 講読、ギリシア語歴史文法 (1)
3. 『イリアス』 XVIII 講読、ギリシア語歴史文法 (2)
4. 『イリアス』 XVIII 講読、ギリシア語歴史文法 (3)
5. 『イリアス』 XVIII 講読、ギリシア語歴史文法 (4)
6. 『イリアス』 XVIII 講読、ギリシア語歴史文法 (5)
7. 『イリアス』 XVIII 講読、ギリシア語歴史文法 (6)
8. 『イリアス』 XVIII 講読、ギリシア語歴史文法 (7)
9. 『イリアス』 XVIII 講読、ギリシア語歴史文法 (8)
10. 『イリアス』 XVIII 講読、ギリシア語歴史文法 (9)
11. 『イリアス』 XVIII 講読、ギリシア語歴史文法 (10)
12. 『イリアス』 XVIII 講読、ギリシア語歴史文法 (11)
13. 『イリアス』 XVIII 講読、ギリシア語歴史文法 (12)
14. 『イリアス』 XVIII 講読、ギリシア語歴史文法 (13)
15. 『イリアス』 XVIII 講読、ギリシア語歴史文法 (14)

8. 成績評価方法：

出席 (40%)、毎回の予習 (30%) 授業内容の理解度 (30%)

9. 教科書および参考書：

- 1) 教科書[textbook]: Pharr-Wright, Homeric Greek (concise grammar of Homeric Greek)
- 2) 参考書[references]

文法書[grammar]: Chantraine, Grammaire homérique

語源辞典[etymological dictionary]: Frisk, Etymologisches Woerterbuch des Griechischen, Beekes, - Etymological dic

10. 授業時間外学習：毎回 10～15 行の予習が必要となる。復習を行い、授業で得た知識を使えるようになることを心がけること。[Participants are required to translate 10-15 lines of the text in advance, and expected to review knowledge learned in classes and to apply it.]

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：参加者は古典ギリシア語初級の知識を有すること。

[Participants are expected to have basic understandig of classical Greek.]

科目名：ギリシャ語 / Greek

曜日・講時：前期 金曜日 1 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：尾園 絢一

コード：LB35101 科目ナンバリング：LHM-0FL201J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：古典ギリシャ語文法初級

2. Course Title (授業題目)：Elementary Grammar of classical Greek

3. 授業の目的と概要：古典ギリシア語を初めて学ぶ人を対象に文字の読み方から始め、練習問題を解きながら文法を習得する。歴史文法の視点に立った解説も交えながら、音韻や活用の種類などの原理の理解に重点を置いた授業を目指す。基本的には教科書に沿って進めていくが、順序を変えることもある。重要な文法事項については資料を追加して解説する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course will help students learn classical Greek from the beginning by doing exercise in the textbook. This course also aims at understanding the mechanism such as phonological and conjugational system, which will be explained from the perspective of historical Greek grammar. The course content will be arranged according to the textbook, but the order or content of the course can be a little changed if necessary. In addition to the text book, references (handouts) are provided by the instructor.

5. 学習の到達目標：

古典ギリシア語文法の基礎を習得し、ギリシア語の簡単な文を訳せるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will learn the basics of classical Greek grammar and be able to translate a short sentence.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 インド・ヨーロッパ語族とギリシア語派。アルファベット、発音、アクセント、音韻論

第2回 動詞組織、現在直説法能動態の動詞変化、第1変化名詞 (PIE *-eh2-)

第3回 未来直説法能動態の動詞変化、第1変化名詞 (PIE *-ih2-)、第1変化男性名詞

第4回 未完了能動態の動詞変化、第2変化名詞・形容詞、前置詞

第5回 アオリスト直説法能動態の動詞変化、完了、過去完了直説法能動態の動詞変化、指示代名詞、強意代名詞

第6回 繫辞 (copula) と後倚辞、疑問代名詞、不定代名詞

第7回 現在直説法、未完了、未来の中動態の動詞変化、人称代名詞

第8回 アオリスト、完了、過去完了、未完了の中動態の動詞変化、再帰代名詞、相互代名詞、所有代名詞

第9回 第2アオリスト、受動アオリスト (ē-アオリスト、thē-アオリスト)、第3変化名詞 (1)

第10回 第3変化名詞 (2)、約音動詞 (verba contracta)

第11回 黙音語幹動詞 (verba muta)、第3変化 (子音語幹) 形容詞の変化 (1)

第12回 流音語幹動詞 (verba liquida)、第3変化 (子音語幹) 名詞の変化 (3)

第13回 接続法能動態の動詞変化

第14回 接続法中動態の動詞変化

第15回 母音交替 (アプラウト)、形容詞 mégas polús の変化

8. 成績評価方法：

出席 60%、毎回の授業の課題達成度 40%

9. 教科書および参考書：

田中美知太郎、松平千秋『ギリシア語入門新装版』岩波書店、2012年、ISBN 978400022589

10. 授業時間外学習：毎回の授業の復習を行い、指示された練習問題を解いておくこと。文法事項を丸暗記するのではなく、ギリシア語の仕組みを理解することが大事である。[Students are required to do a review of the previous lesson and assigned exercises in advance. It is important not to learn grammatical rules by heart but to understand the mechanism.]

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

後期と合わせて受講することが望ましい。

[It is recommended to take this class along with the course "Greek (Elementary Grammar of classical Greek)" in winter semester.]

科目名：ギリシャ語／ Greek

曜日・講時：後期 金曜日 3 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：尾園 絢一

コード：LB45305 科目ナンバリング：LHM-OFL201J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ホメロス『イリアス』演習

2. Course Title (授業題目)：Seminar on Homer's Iliad

3. 授業の目的と概要：前期に引き続き、『イリアス』を第 18 巻を講読する。講読では受講者に訳してもらい、教員が専門書 (Rix, Historische Grammatik des Griechischen; Risch, Wortbildung der homerischen Sprache; Frisk, Griechisches Etymologisches Wörterbuch 等) を用いて語形一つ一つについて音韻、活用、造語法、語源、方言の特徴等視点から分析し、解説を行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course is continued from "Seminar of Homer's Iliad" in summer semester. Also in this semester we will read the book 18 of the Iliad. In the reading session, participants will translate the text, and the instructor will explain every word from aspects such as phonology, flexion, word-formation, etymology, and dialectic peculiarities (Aeolic, Ionic, Attic), by using references such as Rix, Historische Grammatik des Griechischen; Risch, Wortbildung der homerischen Sprache; Frisk, Griechisches Etymologisches Wörterbuch.

5. 学習の到達目標：

- ・ホメロス叙事詩を訳することができるようになる
- ・語形を文法的・語源的に分析できるようになる
- ・ギリシア語歴史文法の基礎を習得する
- ・辞書、文法書、専門書を使いこなすようになる

6. Learning Goals (学修の到達目標)：- Being able to translate Homer's epic poems.

- Being able to analyze every word in the text grammatically and etymologically.

- Gaining basic understanding of Greek historical grammar

- Learning how to use dictionaries, reference grammars, and relevant references.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 『イリアス』 XVIII 講読、ギリシア語歴史文法 (1)
2. 『イリアス』 XVIII 講読、ギリシア語歴史文法 (2)
3. 『イリアス』 XVIII 講読、ギリシア語歴史文法 (3)
4. 『イリアス』 XVIII 講読、ギリシア語歴史文法 (4)
5. 『イリアス』 XVIII 講読、ギリシア語歴史文法 (5)
6. 『イリアス』 XVIII 講読、ギリシア語歴史文法 (6)
7. 『イリアス』 XVIII 講読、ギリシア語歴史文法 (7)
8. 『イリアス』 XVIII 講読、ギリシア語歴史文法 (8)
9. 『イリアス』 XVIII 講読、ギリシア語歴史文法 (9)
10. 『イリアス』 XVIII 講読、ギリシア語歴史文法 (10)
11. 『イリアス』 XVIII 講読、ギリシア語歴史文法 (11)
12. 『イリアス』 XVIII 講読、ギリシア語歴史文法 (12)
13. 『イリアス』 XVIII 講読、ギリシア語歴史文法 (13)
14. 『イリアス』 XVIII 講読、ギリシア語歴史文法 (14)
15. 『イリアス』 XVIII 講読、ギリシア語歴史文法 (15)

8. 成績評価方法：

出席 (40%)、毎回の予習 (30%) 授業内容の理解度 (30%)

9. 教科書および参考書：

1) 教科書[textbook]: Pharr-Wright, Homeric Greek (concise grammar of Homeric Greek)

2) 参考書[references]

文法書[grammar]: Chantaine, Grammaire homérique

語源辞典[etymological dictionary]: Frisk, Etymologisches Woerterbuch des Griechischen, Beekes, Etymological dicti

10. 授業時間外学習：毎回 10～15 行の予習が必要となる。復習を行い、授業で得た知識を使えるようになることを心がけること。[Participants are required to translate 10-15 lines of the text in advance, and expected to review knowledge learned in classes and to apply it.]

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

参加者は古典ギリシア語初級の知識を有すること。

[Participants are expected to have basic understanding of classical Greek.]

科目名：ギリシャ語／ Greek

曜日・講時：後期 金曜日 1 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：尾園 絢一

コード：LB45102 科目ナンバリング：LHM-0FL201J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：古典ギリシア語文法初級

2. Course Title (授業題目)：Elementary Grammar of classical Greek

3. 授業の目的と概要：前期に引き続き、練習問題を解きながら文法や語彙の理解を深める。後期は動詞の法 (modi)、格の用法などの統語論も学ぶ。歴史文法の視点に立った解説も交えながら、音韻法則や活用の種類などの原理の理解に重点を置いた授業を目指す。基本的には教科書に沿って進めていくが、順序を変えることもある。重要な文法事項については資料を追加して解説する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course, continued from “Elementary grammar of classical Greek” in summer semester, aims to deepen basic understanding of classical Greek grammar and vocabulary. Participants will learn syntax such as the moods of verb, use of the cases. This course also aims at understanding the mechanism such as phonological and conjugational system, which will be explained from the perspective of historical Greek grammar. The course content will be arranged according to the textbook, but the order or content of the course can be a little changed if necessary. In addition to the text book, references (handouts) are provided by the instructor.

5. 学習の到達目標：

古典ギリシア語初級文法を習得し、平易なギリシア語の文章を訳せるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will learn the basics of classical Greek grammar and be able to translate a simple Greek text.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回 条件文、約音名詞 (nomina contracta) の変化、アッティカ第2名詞変化、約音動詞 (verba contracta) の接続法
- 第2回 予想的未来 (prospective) を表わす条件文、不定詞の作り方と用法、補語的不定詞 (accusativus cum infinitivo)
- 第3回 第3変化名詞 (4)、関係代名詞
- 第4回 希求法能動態と中受動態、第3変化形容詞 (1)
- 第5回 可能的未来 (potential) を表わす条件文、第3変化名詞 (5)
- 第6回 分詞の作り方と用法、第3変化名詞 (6)
- 第7回 補語的分詞 (accusativus cum participio)、分詞の独立用法
- 第8回 形容詞の比較、可能性 (potentialis) を表わす希求法、数詞、形容詞の比較の不規則変化
- 第9回 普遍的又は反復的事態 (iterative) を表わす条件文、副詞および副詞の比較
- 第10回 命令法能動態と中受動態、約音動詞 (verba contracta) の命令法、述語的分詞をとる動詞
- 第11回 間接話法 (1) - (2) 動詞の形容詞、
- 第12回 間接話法 (3)、否定詞
- 第13回 無幹母音型動詞 (mi 動詞) の変化 (語根型、重複型)
- 第14回 無幹母音型動詞 (mi 動詞) の変化 (鼻音挿入型)
- 第15回 統語論 (格の用法、文の種類)

8. 成績評価方法：

出席 60%、毎回の授業の課題達成度 40%

9. 教科書および参考書：

田中美知太郎、松平千秋『ギリシア語入門新装版』岩波書店、2012年、ISBN 978400022589

10. 授業時間外学習：毎回の授業の復習を行い、指示された練習問題を解いておくこと。文法事項を丸暗記するのではなく、ギリシア語の仕組みを理解することが大事である。[Students are required to do a review of the previous lesson and assigned exercises in advance. It is important not to learn grammatical rules by heart but to understand the mechanism.]

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○” Indicates the practical business

12. その他：

前期と合わせて受講することが望ましい。

[It is recommended to take this class along with the course “Greek (Elementary Grammar of classical Greek)” in summer semester.]

科目名：ラテン語／ Latin

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：荻原 理

コード：LB32306 科目ナンバリング：LHM-0FL202J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ラテン語原典講読

2. Course Title (授業題目)：Advanced Latin

3. 授業の目的と概要： 語学上比較的やさしいラテン語の文章を、文法上の解説を受けながら、ゆっくり丁寧に読んでいきます。テキストの音読、語形変化の練習にも時間を取ります。そうして文法事項を確認・学習し、ラテン語に馴れていきます。遠慮なく、積極的に質問してください。

読むテキストは、参加者の希望・関心を訊きながら、教員が選定します。ジャンルの異なる複数のテキストを読むことになると思います。

参考までに、前年度は前期・後期を通じて、散文としては、初学者向けに現代人が書いた短い物語 1 つ、それから、「悪魔の偽王国」、カエサル『ガリア戦記』、キケロ『運命について』それぞれのごく一部を読みました。韻文(詩)としては、韻律の基本事項を学びつつ、ホラティウス『風刺詩』の数行と、ルクレティウス『諸事物の本性について』のごく一部を読みました。

前々年度に読んだのは、カエサル『ガリア戦記』、デカルト『省察』、それぞれのごく一部。

その前年度には、ルター「95 か条の提題」、カント「可感界と可知界の形式と諸原理」、ローマ法大全の「法学提要」、それぞれのごく一部。

さらにその前年度には、スピノザ『エチカ』、フォーテスキュー『イングランド法の礼賛について』、それぞれのごく一部。

さらにその前年度には、デカルト『省察』、「カルミナ・ブラーナ」、オウィディウス『変身物語』(韻文)、トマス・アクィナス『神学大全』、それぞれのごく一部を読みました。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We shall read a few linguistically easier Latin texts slowly, with the instructor providing detailed grammatical explanations. We shall also practice the inflections or declensions of some words that we come across. Thereby we shall get used to the language, especially grammar. The instructor will decide on what texts to read by considering the attendants' interests.

5. 学習の到達目標：

授業中読んだ文章については、ラテン語を読みながら文章の意味を捉えられるようになり、また、各語についても構文についても、文法的に説明できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：To become able to comprehend the meaning, and give grammatical explanation, of the texts that we shall have read

7. 授業の内容・方法と進度予定：

【重要】 この科目の資料や連絡は Classroom に掲載します。この科目のクラスコードは です。Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

初回はイントロ。以降、テキストを丁寧に読んでいく。

最初の数回分のテキスト(テキスト 1)は教員が選ぶが、参加者の関心に応じてさらにテキストを選定していく(テキスト 2 以降)。

第 1 回：イントロ

第 2 回：テキスト 1 数行 たとえば 1-3 行であろうか

第 3 回：テキスト 1 次の数行 たとえば 4 行-7 行途中でもであろうか

第 4 回：テキスト 1 その次の数行 たとえば 7 行途中-11 行でもであろうか

第 5 回：テキスト 1 さらにその次の数行 たとえば 11 行-18 行でもであろうか

第 6 回：テキスト 1 18-21 行 ならびに テキスト 2 1-3 行 でもであろうか

第 7 回：テキスト 1 22 行-27 行 ならびに テキスト 2 4-6 行 でもであろうか

第 8 回：テキスト 2 7-15 行 でもであろうか

第 9 回：テキスト 2 16-23 行 でもであろうか

第 10 回：テキスト 2 24-27 行 ならびに テキスト 3 1-4 行 でもであろうか

第 11 回：テキスト 2 28-32 行 ならびに テキスト 3 5-11 行 でもであろうか

第 12 回：テキスト 2 33-36 行 ならびに テキスト 3 12-17 行 でもであろうか

第 13 回：テキスト 3 18-21 行 ならびに テキスト 4 1-4 行 でもであろうか

第 14 回：テキスト 3 22-27 行 ならびに テキスト 4 5-10 行 でもであろうか

第 15 回：テキスト 4 11-22 行 でもであろうか

8. 成績評価方法：

出席：60% 授業時のパフォーマンス：40%

(試験は行わず、レポート提出もありません。)

9. 教科書および参考書：

松平千秋・国原吉之助『新ラテン文法』（南江堂、1968年初版、改訂1979年）を各自入手して下さい。読むテキストはオンラインで提供します。

1 0. **授業時間外学習**：復習（とくに、意味を捉えながらの音読）。次回読む予定の箇所の下調べ（できる範囲で）。

1 1. **実務・実践的授業/Practicalbusiness**：

※○は、**実務・実践的授業**であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

1 2. **その他**：

ラテン語初等文法を一通り学んでいることが参加の条件です（覚え残しが多少あっても構いません）。

科目名：ラテン語／ Latin

曜日・講時：後期 火曜日 3 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：荻原 理

コード：LB42304 科目ナンバリング：LHM-0FL202J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ラテン語原典講読

2. Course Title (授業題目)：Advanced Latin

3. 授業の目的と概要： 語学上比較的やさしいラテン語の文章を、文法上の解説を受けながら、ゆっくり丁寧に読んでいきます。テキストの音読、語形変化の練習にも時間を取ります。そうして文法事項を確認・学習し、ラテン語に馴れていきます。遠慮なく、積極的に質問してください。

読むテキストは、参加者の希望・関心を訊きながら、教員が選定します。ジャンルの異なる複数のテキストを読むことになると思います。

参考までに、前年度は前期・後期を通じて、散文としては、初学者向けに現代人が書いた短い物語 1 つ、それから、「悪魔の偽王国」、カエサル『ガリア戦記』、キケロ『運命について』それぞれのごく一部を読みしました。韻文(詩)としては、韻律の基本事項を学びつつ、ホラティウス『風刺詩』の数行と、ルクレティウス『諸事物の本性について』のごく一部を読みしました。

前々年度に読んだのは、カエサル『ガリア戦記』、デカルト『省察』、それぞれのごく一部。

その前年度には、ルター「95 か条の提題」、カント「可感界と可知界の形式と諸原理」、ローマ法大全の「法学提要」、それぞれのごく一部。

さらにその前年度には、スピノザ『エチカ』、フォーテスキュー『イングランド法の礼賛について』、それぞれのごく一部。

さらにその前年度には、デカルト『省察』、「カルミナ・ブラーナ」、オウィディウス『変身物語』(韻文)、トマス・アクィナス『神学大全』、それぞれのごく一部を読みしました。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We shall read a few linguistically easier Latin texts slowly, with the instructor providing detailed grammatical explanations. We shall also practice the inflections or declensions of some words that we come across. Thereby we shall get used to the language, especially grammar. The instructor will decide on what texts to read by considering the attendants' interests.

5. 学習の到達目標：

授業中読んだ文章については、ラテン語を読みながら文章の意味を捉えられるようになり、また、各語についても構文についても、文法的に説明できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：To become able to comprehend the meaning, and give grammatical explanation, of the texts that we shall have read

7. 授業の内容・方法と進度予定：

【重要】 この科目の資料や連絡は Classroom に掲載します。この科目のクラスコードは です。Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

初回はイントロ。以降、テキストを丁寧に読んでいく。

最初の数回分のテキスト(テキスト 1)は教員が選ぶが、参加者の関心に応じてさらにテキストを選定していく(テキスト 2 以降)。

第 1 回：イントロ

第 2 回：テキスト 1 数行 たとえば 1-3 行であろうか

第 3 回：テキスト 1 次の数行 たとえば 4 行-7 行途中でもであろうか

第 4 回：テキスト 1 その次の数行 たとえば 7 行途中-11 行でもであろうか

第 5 回：テキスト 1 さらにその次の数行 たとえば 11 行-18 行でもであろうか

第 6 回：テキスト 1 18-21 行 ならびに テキスト 2 1-3 行 でもであろうか

第 7 回：テキスト 1 22 行-27 行 ならびに テキスト 2 4-6 行 でもであろうか

第 8 回：テキスト 2 7-15 行 でもであろうか

第 9 回：テキスト 2 16-23 行 でもであろうか

第 10 回：テキスト 2 24-27 行 ならびに テキスト 3 1-4 行 でもであろうか

第 11 回：テキスト 2 28-32 行 ならびに テキスト 3 5-11 行 でもであろうか

第 12 回：テキスト 2 33-36 行 ならびに テキスト 3 12-17 行 でもであろうか

第 13 回：テキスト 3 18-21 行 ならびに テキスト 4 1-4 行 でもであろうか

第 14 回：テキスト 3 22-27 行 ならびに テキスト 4 5-10 行 でもであろうか

第 15 回：テキスト 4 11-22 行 でもであろうか

8. 成績評価方法：

出席：60% 授業時のパフォーマンス：40%

(試験は行わず、レポート提出もありません。)

9. 教科書および参考書：

松平千秋・国原吉之助『新ラテン文法』（南江堂、1968年初版、改訂1979年）を各自入手して下さい。読むテキストはオンラインで提供します。

1 0. **授業時間外学習**：復習（とくに、意味を捉えながらの音読）。次回読む予定の箇所の下調べ（できる範囲で）。

1 1. **実務・実践的授業/Practicalbusiness**：

※○は、**実務・実践的授業**であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

1 2. **その他**：

ラテン語初等文法を一通り学んでいることが参加の条件です（覚え残しが多少あっても構いません）。

科目名：ラテン語／ Latin

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：宮崎 正美

コード：LB35208 科目ナンバリング：LHM-0FL202J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ラテン語文法入門・基礎文法

2. Course Title (授業題目)：Introductory Course of Latin Grammar

3. 授業の目的と概要：この授業では、受講生が、ラテン語の文法の全体像をつかんだ上で、文法の基礎的事項を習得することを目的とする。授業は、

学ぶ上での重要な点や注意すべき点を指摘しながら解説する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides participants to easily recognize an entire structure of Latin grammar and fundamental knowledge. It also provides explanations of important points on learning and points where you should be careful about.

5. 学習の到達目標：

ラテン語文法理解の基礎となる事項(動詞・名詞・形容詞・代名詞その他)を修得し、どのような特徴をもった言語であるかを学ぶこと。

さらに格言など簡単なラテン語文章を読解できるようになることである。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：At the end of the course, participants are expected to acquire some part of Latin speech (verbs, nouns, adjectives, pronouns) as bases, and to learn the characteristics and the basic concepts of Latin.

It also enhances basic reading skills and understand

7. 授業の内容・方法と進度予定：

本授業は講義を中心に進める。内容および進度予定は以下のとおりであるが、若干内容を変更する場合がある。

第1回 インTRODクション

第2回 アルファベット、発音、音節・アクセント規則

第3回 動詞の基礎(1) 人称語尾、4活用型とその判別法、sum 動詞

第4回 動詞の基礎(2) 現在幹、命令法

第5回 名詞の基礎(1) 性・数・格、5変化型とその判別法、第1変化

第6回 名詞の基礎(2) 第2変化、第3変化 i 幹

第7回 名詞の基礎(3) 第3変化子音幹、前置詞(対格、奪格)

第8回 名詞の基礎(4) 属格の用法、与格の用法、第4変化、第5変化

第9回 形容詞(1) 性・数・格の一致、第1・第2変化型

第10回 形容詞(2) 第3変化型

第11回 形容詞(3) 比較級、最上級、副詞、数詞

第12回 代名詞(1) 代名詞の概観、人称代名詞・再帰代名詞、所有代名詞・形容詞

第13回 代名詞(2) 指示代名詞・形容詞 1

第14回 代名詞(3) 指示代名詞・形容詞 2、限定代名詞・形容詞、強意代名詞・形容詞

第15回 代名詞(4) 関係代名詞・形容詞、疑問代名詞・形容詞、その他の代名詞・形容詞

8. 成績評価方法：

出席日数が総授業数の 2/3 以上の学生が評価の対象になります。出席状況(3分の2の出席を単位取得の最低条件とし、残り3分の1を全体の40%に換算)、レポート・試験(60%)、に基づいて評価する。(ただし比重は平均点、偏り、状況等により調整することがある。)

9. 教科書および参考書：

参考書：

羅和辞典(改訂版) 水谷智洋編 研究社 2009 ISBN/ISSN:9784767490250

10. 授業時間外学習：指定したテキスト(プリント)の該当箇所を読んで、予習しておくこと。テキストの練習問題を利用して、授業の内容を理解し、例文の文法解析をしておく

[Students are required to prepare for the assigned part of the handouts. They are also required to review each class using handouts and to analyze each latin words in example sente

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

E-mail:paul-m@tohoku.ac.jp(◎を@に置き換えてください) この講義は日本語で提供されます。辞書は参考書としているが、受講のためには必要と考えてほしい。教科書としてプリントを配付する。

履修後続いてラテン語 II の履修が望まれる。

[This course will be taught in Japanese. It is necessary for students to use a Latin dictionary in this class. No textbooks but references (handouts) are provided.

It is preferable to attend "Latin grammar II" sequentially to cover basic Latin grammar.]

科目名：ラテン語／ Latin

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：宮崎 正美

コード：LB45205 科目ナンバリング：LHM-0FL202J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ラテン語文法

2. Course Title (授業題目) : Latin Grammar

3. 授業の目的と概要：この授業では、前期に続きラテン語の基礎の習得を目指します。また基礎文法を一通り学ぶことを通じて、読解力を身に付けることも目指します。進度に応じて、古代・中世・近代のさまざまな文章を紹介します。それにより、ラテン語が西欧文化に対して現代に至るまで極めて大きな影響を与え続けていることをうかがい知ることが出来ます。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In this course we aim to gain the basic knowledge of Latin. We aim at the same time to acquire the ability to read Latin texts by learning the basic of Latin grammar. According to the degree of advancement students have opportunity to come into contact with actual Latin texts of antiquity, the Middle Ages and modern times. Students will find through the course that Latin has so great influence on the Western culture up to our time.

5. 学習の到達目標：

- ・名詞・形容詞・動詞等の複雑な語形変化を習得する
- ・ラテン語特有の文章構造・表現に触れ、その仕組みを理解する
- ・簡単な文章を理解する程度の読解力を身に付ける。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : ・We aim to learn the complex conjugation and declension of Latin.

- ・We aim to come into meet with the peculiar sentence structure and expressions to Latin and understand the system.
- ・We aim to acquire reading comprehension enough to understand simple sentences.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- ・第 1 回:動詞(1) 未完了過去
- ・第 2 回:動詞(2) 未来
- ・第 3 回:動詞(3) 現在完了
- ・第 4 回:動詞(4) 過去完了、未来完了
- ・第 5 回:動詞(5) 受動形(現在、未完了過去、未来)
- ・第 6 回:動詞(6) 受動形(現在完了、過去完了、未来完了)
- ・第 7 回:動詞(7) 形式受動態動詞
- ・第 8 回:分詞(1) 現在分詞、完了分詞
- ・第 9 回:分詞(2) 目的分詞、未来分詞
- ・第 10 回:動名詞・動形容詞
- ・第 11 回:接続法(1) 現在
- ・第 12 回:接続法(2) 未完了過去
- ・第 13 回:接続法(3) 現在完了・過去完了、受動態
- ・第 14 回:接続法(4) 目的文・結果文・条件文
- ・第 15 回:間接話法

8. 成績評価方法：

出席日数が総授業数の 2/3 以上の学生が評価の対象になります。出席状況(3 分の 2 の出席を単位取得の最低条件とし、残り 3 分の 1 を全体の 40%に換算)、レポート・試験(60%)、に基づいて評価する。(ただし比重は 平均点、偏り、状況等により調整することがある。)

9. 教科書および参考書：

参考書：

羅和辞典(改訂版) 水谷智洋編 研究社 2009 ISBN/ISSN:9784767490250

10. 授業時間外学習：指定したテキスト(プリント)の該当箇所を読んで、予習しておくこと。テキストの練習問題を利用して、授業の内容を理解し、例文の文法解析をしておくこと

[Students are required to prepare for the assigned part of the handouts. They are also required to review each class using handouts and to analyze each latin words in example sen

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他：

E-mail:paul-m@tohoku.ac.jp(◎を@に置き換えてください) この講義は日本語で提供されます。辞書は参考書としているが、受講のためには必要と考えてほしい。教科書としてプリントを配付する。

履修後続いてラテン語 II の履修が望まれる。

[This course will be taught in Japanese. It is necessary for students to use a Latin dictionary in this class. No textbooks but references (handouts) are provided.

It is preferable to attend "Latin grammar II" sequentially to cover basic Latin grammar.]

科目名：サンスクリット語／ Sanskrit

曜日・講時：前期 木曜日 3講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：笠松 直

コード：LB34302 科目ナンバリング：LHM-OFL203J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：サンスクリット語基礎演習

2. Course Title (授業題目)：Sanskrit (Introductory Seminar 1)

3. 授業の目的と概要：ランマンの『サンスクリット読本』をテキストとして読解演習を行い、サンスクリット語の文法・語彙の理解を深める。テキストの語彙集・注記ばかりでなく、ホイットニーの文法書を適宜参照しながら読み進める。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This class aims to deepen understanding of Sanskrit grammar and vocabulary through reading texts in Lanman's A Sanskrit Reader. We will read as much as possible by referring to Whitney's Sanskrit Grammar as well as the textbook's glossary and explanatory notes.

5. 学習の到達目標：

平易なサンスクリット語の文章を訳せるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will be able to translate plain Sanskrit sentences.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1 イントロダクション

2 『ナラ王物語』第1章 (ナラ王とダマヤンティーの生い立ち) 1-3

3 『ナラ王物語』第1章 4-6

4 『ナラ王物語』第1章 7-10

5 『ナラ王物語』第1章 11-14

6 『ナラ王物語』第1章 15-19

7 『ナラ王物語』第1章 20-25

8 『ナラ王物語』第1章 26-32

9 『ナラ王物語』第2章 (婿選びの御触れ) 1-7

10 『ナラ王物語』第2章 8-14

11 『ナラ王物語』第2章 15-21

12 『ナラ王物語』第2章 22-28

13 『ナラ王物語』第2章 29-30, (ナラ王とダマヤンティーの対話) 1-6

14 『ナラ王物語』第3章 7-14

15 『ナラ王物語』第3章 15-22

8. 成績評価方法：

予習 (40%), 授業内容の理解度 (60%)

9. 教科書および参考書：

C. R. Lanman, A Sanskrit Reader, W.D. Whitney, Sanskrit Grammar

10. 授業時間外学習：個々の語形を文法的に解析したうえ、指定された部分を訳しておくこと。毎回の授業の復習に十分に時間をかけること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

サンスクリット初級の知識を有すること。4セメスターのサンスクリット語・サンスクリット語基礎演習 (2) と合せて受講するのが望ましい。

科目名：サンスクリット語／ Sanskrit

曜日・講時：後期 木曜日 3 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：笠松 直

コード：LB44302 科目ナンバリング：LHM-OFL203J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：サンスクリット語基礎演習

2. Course Title (授業題目)：Sanskrit (Introductory Seminar 2)

3. 授業の目的と概要：前期に引き続き、ランマンの『サンスクリット読本』をテキストとして読解演習を行い、サンスクリット語の文法・語彙の理解を深める。テキストの語彙集・注記ばかりでなく、ホイットニーの文法書を適宜参照しながら読み進める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This class, continued from “Sanskrit (Introductory Seminar 1)”, aims to deepen understanding of Sanskrit grammar and vocabulary through reading texts in Lanman’s A Sanskrit Reader. We will read as much as possible by referring to Whitney’s Sanskrit Grammar as well as the textbook’s glossary and explanatory notes.

5. 学習の到達目標：

平易なサンスクリット語の文章を訳せるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will be able to translate plain Sanskrit sentences.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1 イントロダクション

2 『ナラ王物語』第3章 23–25, 第4章 (ナラ王とダマヤンティーの対話) 1–5

3 『ナラ王物語』第4章 6–13

4 『ナラ王物語』第4章 14–22

5 『ナラ王物語』第4章 23–31

6 『ナラ王物語』第5章 (婿選びの儀式) 1–8

7 『ナラ王物語』第5章 9–18

8 『ナラ王物語』第5章 19–27

9 『ナラ王物語』第5章 28–36

10 『ナラ王物語』第5章 37–46

11 『有益な教え (ヒトパーデーシャ)』イントロダクション, プロローグ I

12 『有益な教え』プロローグ II

13 『有益な教え』プロローグ II

14 『有益な教え』「老いた虎と旅人」I

15 『有益な教え』「老いた虎と旅人」II

8. 成績評価方法：

予習 (40%), 授業内容の理解度 (60%)

9. 教科書および参考書：

C. R. Lanman, A Sanskrit Reader, W.D. Whitney, Sanskrit Grammar

10. 授業時間外学習：個々の語形を文法的に解析したうえ、指定された部分を訳しておくこと。毎回の授業の復習に十分に時間をかけること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○”Indicates the practical business

12. その他：

サンスクリット初級の知識を有すること。3セメスターのサンスクリット語・サンスクリット語基礎演習 (1) と合せて受講するのが望ましい。

科目名：中国語／ Chinese

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

Semester : 3 単位数 : 2

担当教員：張 佩茹

コード：LB33201 科目ナンバリング：LHM-CHN201J 使用言語：2カ国語以上

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中国語中級会話

2. Course Title (授業題目) : Intermediate Mandarin Chinese Conversation

3. 授業の目的と概要：一年次で学習した中国語の発音と基礎文法をベースに、語彙量と使える表現を増やし、中級レベルの会話力を身につけることを目的とする。まず、発音練習を徹底的にし、中国語を話す自信をつける。そのうえ、日常生活の様々な場面を想定した会話文を使い、中国語らしい表現を体得し、中国語での発信力を磨く。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course is designed for those students who have already completed the learning at the beginner's level and acquired the basic knowledge of Mandarin Chinese pronunciation and grammar. The purpose of this course is to raise the speaking ability of the students to the intermediate level. First of all, a thorough practice of pronunciation will be provided to help students gain confidence in speaking Mandarin Chinese. Furthermore, daily conversation samples in various situations will be used for students to practice in order to become familiar with natural Mandarin Chinese expressions and be able to communicate in Mandarin Chinese.

5. 学習の到達目標：

簡単な日常会話を流暢に話し、積極的に中国語で意思疎通を図れるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : Students will develop the ability to carry out basic daily conversations fluently and will be eager to communicate in Mandarin Chinese.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

<授業内容・方法>グループワークやペアワークで会話練習をする。

<進度予定>

第1回 ガイダンス、第1課の発音練習と本文

第2回 第1課の応用練習

第3回 第2課の発音練習と本文

第4回 第2課の応用練習

第5回 第3課の発音練習と本文

第6回 第3課の応用練習

第7回 第4課の発音練習と本文

第8回 第4課の応用練習

第9回 第5課の発音練習と本文

第10回 第5課の応用練習

第11回 第6課の発音練習と本文

第12回 第6課の応用練習

第13回 第7課の発音練習と本文

第14回 第7課の応用練習

第15回 期末まとめ

8. 成績評価方法：

平常点：60% (授業態度、小テスト、課題など)

期末試験：40%

9. 教科書および参考書：

<教科書> 『話してみたい 中国語スピーキング沙龍』、相原茂・蘇紅、朝日出版社、2014年

<参考書> 『やさしくくわしい中国語文法の基礎 改訂新版』、守屋 宏則ら著、東方書店、2019年

10. 授業時間外学習：予習：新出語句を学習し、本文の意味を確認してから、録音を3回以上聞き、耳を慣らす。聞いた内容をそのまま口で繰り返す練習もしておく。

復習：学習した単語と表現をすらすら言えるまで練習する。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

成績評価における平常点の割合が高いため、普段の授業時に積極的な授業態度が求められる。

科目名：中国語／ Chinese

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

Semester：4 単位数：2

担当教員：張 佩茹

コード：LB43201 科目ナンバリング：LHM-CHN201J 使用言語：2カ国語以上

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中国語中級会話

2. Course Title (授業題目)：Intermediate Mandarin Chinese Conversation

3. 授業の目的と概要：一年次で学習した中国語の発音と基礎文法をベースに、語彙量と使える表現を増やし、中級レベルの会話力を身につけることを目的とする。まず、発音練習を徹底的にし、中国語を話す自信をつける。そのうえ、日常生活の様々な場面を想定した会話文を使い、中国語らしい表現を体得し、中国語での発信力を磨く。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course is designed for those students who have already completed the learning at the beginner's level and acquired the basic knowledge of Mandarin Chinese pronunciation and grammar. The purpose of this course is to raise the speaking ability of the students to the intermediate level. First of all, a thorough practice of pronunciation will be provided to help students gain confidence in speaking Mandarin Chinese. Furthermore, daily conversation samples in various situations will be used for students to practice in order to become familiar with natural Mandarin Chinese expressions and be able to communicate in Mandarin Chinese.

5. 学習の到達目標：

簡単な日常会話を流暢に話し、積極的に中国語で意思疎通を図れるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will develop the ability to carry out basic daily conversations fluently and will be eager to communicate in Mandarin Chinese.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

<授業内容・方法>グループワークやペアワークで会話練習をする。

<進度予定>

第1回 ガイダンス、第8課の発音練習と本文

第2回 第8課の応用練習

第3回 第9課の発音練習と本文

第4回 第9課の応用練習

第5回 第10課の発音練習と本文

第6回 第10課の応用練習

第7回 第11課の発音練習と本文

第8回 第11課の応用練習

第9回 第12課の発音練習と本文

第10回 第12課の応用練習

第11回 第13課の発音練習と本文

第12回 第13課の応用練習

第13回 第14課の発音練習と本文

第14回 第14課の応用練習

第15回 期末まとめ

8. 成績評価方法：

平常点：60% (授業態度、小テスト、課題など)

期末試験：40%

9. 教科書および参考書：

<教科書>『話してみたい 中国語スピーキング沙龍』、相原茂・蘇紅、朝日出版社、2014年

<参考書>『やさしくくわしい中国語文法の基礎 改訂新版』、守屋 宏則ら著、東方書店、2019年

10. 授業時間外学習：予習：新出語句を学習し、本文の意味を確認してから、録音を3回以上聞き、耳を慣らす。聞いた内容をそのまま口で繰り返す練習もしておく。

復習：学習した単語と表現をすらすら言えるまで練習する。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

成績評価における平常点の割合が高いため、普段の授業時に積極的な授業態度が求められる。

科目名：朝鮮語／ Korean

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：権 来順

コード：LB33202 科目ナンバリング：LHM-KOR201J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：韓国語入門

2. Course Title (授業題目) : Korean for Beginners

3. 授業の目的と概要：韓国語（ハングル）に関する全体像を身につけ、韓国語の読み書きができることをめざす。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : To be familiar with the overall concept of Hangeul, with the aim of being able to read and write Hangeul characters.

5. 学習の到達目標：

学習の入り口としてハングル文字の仕組みを理解し、韓国語への興味を持たせることを目的とする。特に日本語にない発音に重点を置き、正確な韓国語の発音を練習する。韓国の文化、風習などの視聴覚資料を使い、基本文法と会話を学ぶ。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : To understand the mechanism of Hangeul characters as an introduction to learning Korean, so as to draw interest in the Korean language. In particular, to focus on pronunciations not found in the Japanese language, and to practice accurate Korean pronunciation. To learn basic grammar and conversation through the use of audio-visual themes such as Korean culture and customs.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1 イントロダクション

2 現在形の用言活用 1 (規則活用)

3 現在形の用言活用 II (規則活用)

4 現在形の用言活用 (変則活用)

5 固有語数詞、時間、買い物、値段などの表現

6 過去形の用言活用 1 (規則活用)

7 過去形の用言活用 II (規則活用)

8 過去形の用言活用 (変則活用)

9 願望を表す表現

10 意志を表す表現

11 目的を表す表現

12 格式体敬語表現

13 非格式体敬語表現

14 意向・意見・勧誘の表現

15 まとめと試験

8. 成績評価方法：

筆記試験、出席率、授業時の読み、書きなどの平常点の総合点

9. 教科書および参考書：

『パレン韓国語』著者 権来順 外 4 人 (朝日出版社) 参考資料のプリント配布

10. 授業時間外学習：毎回の内容を復習すること

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：朝鮮語／ Korean

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：権 来順

コード：LB43205 科目ナンバリング：LHM-KOR201J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：韓国語初級

2. Course Title (授業題目) : Elementary Korean

3. 授業の目的と概要：韓国語の読解力と簡単な生活会話をめざす。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : To be able to comprehend Korean text and carry out simple everyday conversation.

5. 学習の到達目標：

日常生活に必要な語彙や表現力を高め、コミュニケーション能力を養う。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : To improve vocabulary and expressions necessary for everyday life, and to enhance communication skills.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1 イントロダクション

2 現在形の用言活用 Ⅰ (規則活用)

3 現在形の用言活用 Ⅱ (規則活用)

4 現在形の用言活用 (変則活用)

5 固有語数詞、時間、買い物、値段などの表現

6 過去形の用言活用 Ⅰ (規則活用)

7 過去形の用言活用 Ⅱ (規則活用)

8 過去形の用言活用 (変則活用)

9 願望を表す表現

10 意志を表す表現

11 目的を表す表現

12 敬語表現

13 非敬語表現

14 意向・意見・勧誘の表現

15 まとめと試験

8. 成績評価方法：

筆記試験、出席率、授業時の読み、書きなどの平常点の総合点

9. 教科書および参考書：

『パルン韓国語』著者 権来順 外 4 人 (朝日出版社) 参考資料のプリント配布

10. 授業時間外学習：毎回の内容を復習すること

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：イタリア語／ Italian

曜日・講時：前期 木曜日 3 講時

Semester：3 単位数：2

担当教員：フォンガロ エンリコ

コード：LB34305 科目ナンバリング：LHM-0FL204J 使用言語：2カ国語以上

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：イタリア語初級（前期）

2. Course Title (授業題目)：Italian Language (Elementary Level)

3. 授業の目的と概要：日常生活で使用される対話表現を題材に、イタリア語特有の発音・リズムや言い回しを身につけ、名詞の性と数、形容詞の変化、定冠詞と不定冠詞、所有形容詞、指示詞、直接法現在の規則動詞といった基礎文法の規則を習得する。同時に習得した文法知識を用いて初歩的な疑問文や否定文をつくり、会話表現の練習を行なう。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：By learning expressions used in everyday life, this course aims first of all to acquire typical Italian pronunciation, rhythm and fixed phrases. The students will learn basic grammatical rules concerning genders and numbers of nouns, forms of adjectives, determinative and indefinite articles, possessive adjectives, demonstrative terms and the indicative present form of regular verbs. At the same time, using the grammatical notions acquired, the students will do speaking exercises using interrogative pronouns and negative sentences.

5. 学習の到達目標：

実用イタリア語のための初歩的な文法を習得する。主語・述語・補語にもとづく平易な文章を理解し、簡単な日常会話や挨拶の表現ができる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The course aims to acquire the first grammatical rules useful for speaking actively Italian. The students will be able to understand simple phrases based on subject, predicate, complement structures, and to engage easy everyday conversations or greet.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

1. コースの紹介。
2. 発音とアルファベット。
3. 定冠詞・不定冠詞・名詞。
4. 形容詞と挨拶。
5. Essere 不規則動詞の直接法現在形。
6. Avere 不規則動詞の直接法現在形。
7. -are 規則動詞の直接法現在形。
8. 丁寧な表現。
9. 数字と聞き取り練習。
10. 小テストと-ere の規則動詞の直接法現在形。
11. Fare 不規則動詞の直接法現在形と命令形。
12. 復習と聞き取り練習。
13. 疑問詞。
14. 小テストと復習。
15. 期末テストとまとめ。

8. 成績評価方法：

積極的な授業態度、小テストおよび学期末試験。

9. 教科書および参考書：

なし、授業資料を Classroom にアップするので事前にプリントアウトすること

10. 授業時間外学習：授業の復習と宿題を行なう。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

辞書を必ず用意すること。詳細については授業初回に指示する。

科目名：イタリア語／ Italian

曜日・講時：後期 木曜日 3 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：フォンガロ エンリコ

コード：LB44305 科目ナンバリング：LHM-0FL204J 使用言語：2カ国語以上

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：イタリア語初級（後期）

2. Course Title (授業題目)：Italian Language (Elementary Level)

3. 授業の目的と概要：前期セメスターに引き続き、日常生活で使用される会話表現を題材に、不規則動詞、助動詞、再帰動詞、過去形といった基礎的文法の規則を習得する。同時に習得した文法知識を用いて、会話表現、作文の練習を行なう。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In continuation with the previous semester, the students will learn new basic grammatical rules concerning irregular verbs, auxiliary verbs, reflexive verbs, past tense, as contained in model sentences and colloquial expressions often used in everyday circumstances. At the same time, using their grammatical acquisition, the students will do exercises of speaking and writing.

5. 学習の到達目標：

実用イタリア語のための初歩的な文法を習得する。主語・述語・補語にもとづく平易な文章を理解し、簡単な日常会話の表現ができる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The course aims to acquire the first grammatical rules useful for speaking actively Italian. The students will be able to understand simple phrases based on subject, predicate, complement structures, and to engage easy everyday conversations.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業はオンライン（リアルタイム）で行います。

1. 復習。
2. -ere 規則動詞の直接法現在形。
3. Bere 不規則動詞の直接法現在形と読解の練習。
4. Andare 不規則動詞の直接法現在形。
5. C'è と ci sono。
6. 聞き取り練習と復習。
7. 小テストと時刻。
8. -ire 規則動詞の直接法現在形その一。
9. 会話の練習と -ire 規則動詞の直接法現在形その二。
10. Mi piace の使い方。
11. Uscire 不規則動詞の直接法現在形と人称代名詞。
12. 再帰動詞。
13. Dovere 不規則動詞の直接法現在形とその使い方。
14. まとめ、課題の確認 1
15. まとめ、課題の確認 2

8. 成績評価方法：

積極的な授業態度、授業中の会話、作文、課題の提出などを総合して判断する。

9. 教科書および参考書：

なし、授業資料を Classroom にアップするので事前にプリントアウトすること。

10. 授業時間外学習：授業の復習と宿題を行なう。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

辞書を必ず用意すること。

科目名：イタリア語／ Italian

曜日・講時：前期 木曜日 4 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：フォンガロ エンリコ

コード：LB34401 科目ナンバリング：LHM-0FL204J 使用言語：2カ国語以上

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：イタリア語中級（前期）

2. Course Title (授業題目)：Italian Language (Intermediate Level)

3. 授業の目的と概要：これまでに学習した初級文法を復習しながら、引き続き実用イタリア語のための基礎文法を身につける。日常生活の様々な場面に対応する会話表現や文章例を題材に、命令法、半過去形、未来形、比較級と最上級などの中級文法の規則を習得する。同時に、文法知識を用いた実践的な会話練習を行ないながら、イタリア語文章の読解力・翻訳能力・作文能力を養う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：While brushing up on grammar learnt until now, the students will acquire new basic grammatical knowledge useful for practical Italian. The students will learn new rules concerning imperative, imperfect, future, comparative, superlative and so on, as contained in model sentences and colloquial expressions often used in everyday circumstances. At the same time, while training in conversations their grammatical acquisition, the students will improve their reading, translating and writing skills.

5. 学習の到達目標：

実用イタリア語のための基礎文法を習得し、異なる話法や動詞の時制をはじめとする、より複雑なイタリア語の文章を理解し、明確かつ発展的に表現することができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course aims to acquire some basic grammatical knowledge useful for everyday Italian, to understand quite complex sentences including expressions and verb tenses different from the Japanese ones, and to become able to speak in a clear and understandable way.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

1. 復習。
2. Dov'è? C'è? の使い方。
3. Quanto costa? と会話の練習。
4. Potere 不規則動詞の直接法現在形とその使い方。
5. Venire 不規則動詞の直接法現在形。
6. 読解の練習と復習。
7. 小テストと Stare 不規則動詞の直接法現在形。
8. 聞き取り練習と非人称動詞。
9. Volere 不規則動詞の直接法現在形とその使い方。
10. 直接法近過去その一。
11. 直接法近過去その二。
12. 小テストと会話の練習。
13. 直接法近過去その三。
14. 代名詞と会話の練習。
15. 期末テストとまとめ。

8. 成績評価方法：

積極的な授業態度、小テストおよび学期末試験。詳しくは授業中に指示する。

9. 教科書および参考書：

なし、授業資料を Classroom にアップするので事前にプリントアウトすること。

10. 授業時間外学習：授業の復習と宿題を行なう。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

辞書を必ず用意すること。

科目名：イタリア語／ Italian

曜日・講時：後期 木曜日 4 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：フォンガロ エンリコ

コード：LB44401 科目ナンバリング：LHM-0FL204J 使用言語：2カ国語以上

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：イタリア語中級（後期）

2. Course Title (授業題目)：Italian Language (Intermediate Level)

3. 授業の目的と概要：前期セメスターに引き続き、日常生活の様々な場面に対応する会話表現や文章例を題材に、関係代名詞、受動態、条件法、接続法などの中級文法の規則を一通り習得する。同時に、文法知識を用いた実践的な会話練習を行ないながら、イタリア語文章の読解力・翻訳能力・作文能力をさらに発展させる。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In continuation with the previous semester, the students will acquire new basic grammatical knowledge useful for practical Italian. The students will learn new rules concerning relative pronouns, passive, conditional, subjunctive and so on, as contained in model sentences and colloquial expressions often used in everyday circumstances. At the same time, while training in conversations their grammatical acquisition, the students will improve their reading, translating and writing skills.

5. 学習の到達目標：

実用イタリア語のための基礎文法を習得し、異なる話法や動詞の時制をはじめとする、より複雑なイタリア語の文章を理解し、明確かつ発展的に表現することができる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：This course aims to acquire some basic grammatical knowledge useful for everyday Italian, to understand quite complex sentences including expressions and verb tenses different from the Japanese ones, and to become able to speak in a clear and understandable way.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業はオンライン（リアルタイム）で行います。

1. 復習。
2. 不規則動詞の直接法近過去。
3. 聞き取りと会話の練習。
4. 読解の練習と相対最上級。
5. 小テストと代名詞。
6. 疑問詞。
7. 会話の練習と序数詞。
8. 部分補語。
9. 聞き取りと会話の練習。
10. 読解の練習と小テスト。
11. 人称代名詞。
12. 会話の練習。
13. 絶対最上級。
14. まとめ、課題の確認 1
15. まとめ、課題の確認 2

8. 成績評価方法：

積極的な授業態度、会話、作文の能力を総合して判定する

9. 教科書および参考書：

なし、授業資料を Classroom にアップするので事前にプリントアウトすること。

10. 授業時間外学習：授業の復習と宿題を行なう。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

辞書を必ず用意すること。

科目名：イタリア語／ Italian

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：フォンガロ エンリコ

コード：LB33408 科目ナンバリング：LHM-0FL204J 使用言語：2カ国語以上

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：イタリア語上級（前期）

2. Course Title (授業題目)：Italian Language (Advanced Level)

3. 授業の目的と概要：この講義では、文法は学生の学習が不完全な部分を補う程度にとどめる。読解や場合によっては翻訳も行なえるように、日常的なことばや本で使用されるような複雑な筋からなる文章の理解に向けた、イタリア語の高度な運用を目指す。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, the lessons will focus on a high level Italian, aiming to understand everyday expressions and complex sentences used in written Italian, as they occur during reading and translation's exercises. Grammar will not exceed the level of a supplement, if necessary.

5. 学習の到達目標：

これまで学んできたイタリア語文法を用いて、さらに高度な読解、翻訳、会話、聞き取りの能力を伸ばし、イタリア文化に関しても学んでいく。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The course aims to improve the capacity of listening, speaking, translating and reading difficult texts, using grammatical knowledge learnt in the previous courses, and at the same time it provides some information about Italian culture.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

1. 復習。
2. 会話と読解の練習。
3. 小テストと直接法未来形。
4. Gerundio と進行動詞。
5. 会話と読解の練習。
6. 会話と聞き取りの練習。
7. 読解の練習と小テスト。
8. 直接法近過去と反過去その一。
9. 会話と読解の練習。
10. 直接法近過去と反過去その二。
11. 会話と読解の練習。
12. 人称代名詞。
13. 会話と読解の練習。
14. 聞き取り練習とテストの準備。
15. 期末テストとまとめ。

8. 成績評価方法：

会話・作文・翻訳・要約・聞き取りなどを通じて主に講義中に行なう。

9. 教科書および参考書：

講義中に配布する。

10. 授業時間外学習：授業の復習と宿題を行なう。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

科目名：イタリア語／ Italian

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：フォンガロ エンリコ

コード：LB43408 科目ナンバリング：LHM-0FL204J 使用言語：2カ国語以上

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：イタリア語上級（後期）

2. Course Title (授業題目)：Italian Language (Advanced Level)

3. 授業の目的と概要：前期に引き続き、様々なテキストの読解、翻訳を行ない、日常的な会話表現、聞き取りに関してもさらに練習を行なっていく。イタリア文化についてのトピックをとりあげ、それに関する語彙、知識を深め、イタリア語の高度な運用を目指す。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In continuation with the previous semester, the students will carry on reading and translating texts, making listening exercises and improving their ability by acquiring everyday conversation's skills. The lessons will focus on a high level Italian, trying to deepen knowledge of Italian culture through the acquirement of new vocabulary and notions.

5. 学習の到達目標：

これまで学んできたイタリア語文法を用いて、さらに高度な読解、翻訳、会話、聞き取りの能力を伸ばし、イタリア文化に関しても学んでいく。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The course aims to improve the capacity of listening, speaking, translating and reading difficult texts, using grammatical knowledge learnt in the previous courses, and at the same time it provides some information about Italian culture.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業はオンライン（リアルタイム）で行います。

1. 復習。
2. 会話と読解の練習。
3. 接続法現在形。
4. 会話と読解の練習。
5. 聞き取り練習と復習。
6. 会話と読解の練習。
7. 条件法と接続法。
8. 会話と読解の練習。
9. 聞き取り練習と復習。
10. 直接法の遠過去と大過去。
11. 会話と読解の練習。
12. 聞き取り練習と復習 1
13. 聞き取り練習と復習 2
14. まとめ、課題の確認 1
15. まとめ、課題の確認 2

8. 成績評価方法：

会話・作文・翻訳・要約・聞き取りおよび課題の提出などを通じて主に講義中に行なう。

9. 教科書および参考書：

講義中にプリントを配布する。

10. 授業時間外学習：授業の復習と宿題を行なう。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：専門中国語／ Advanced Chinese

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：張 佩茹

コード：LB32303 科目ナンバリング：LHM-CHN202J 使用言語：2 カ国語以上

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中国語中級読解

2. Course Title (授業題目)：Intermediate Mandarin Chinese Reading

3. 授業の目的と概要：中国語の初級科目で習得した語彙や文法知識を応用し、中級レベルの文章を読み解く練習をする。やや分かりにくい表現があっても、前後の文脈で考えられる解釈を推測する力を磨く。また、辞書で単語の意味を調べる練習もする。能動的に文章を理解する力を身につけることを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course is designed for students to apply the knowledge of vocabulary and grammar that they learned at the beginner's level to read texts at the intermediate level. Even if there are some difficult expressions, students learn how to comprehend them with the help of the contexts. Also, students practice how to use dictionaries to find the appropriate explanation of new words. This course helps students to gain the ability to read and understand texts actively.

5. 学習の到達目標：

現代中国語のエッセイや新聞記事を正確に読み解く。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will develop the ability to read essays or news written in modern Mandarin Chinese with accuracy.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

<授業内容・方法>受講生が指定された箇所をあらかじめ和訳したうえで授業に臨む。授業では意味の確認のほか、関連文法ポイントの練習もする。

<進度予定>

第1回 ガイダンス

第2回 第一課本文：入学

第3回 第一課練習問題

第4回 第二課本文：祝日手当て

第5回 第二課練習問題

第6回 第三課本文：お母さん

第7回 第三課練習問題

第8回 第四課本文：先払い

第9回 第四課練習問題

第10回 第五課本文：贈り物

第11回 第五課練習問題

第12回 第六課本文：地方出身者

第13回 第六課練習問題

第14回 新聞記事の読解練習①

第15回 期末まとめ

8. 成績評価方法：

平常点：60% (授業態度、小テスト、課題など)

期末試験：40%

9. 教科書および参考書：

<教科書>『大学生のための現代中国 12 話・Ⅲ』杉野元子等、白帝社、2012 年

<参考書>『やさしくくわしい中国語文法の基礎 改訂新版』、守屋 宏則ら著、東方書店、2019 年

10. 授業時間外学習：予習：本文の内容をあらかじめ翻訳しておくこと。

復習：学習した内容をもう一度読み返し、すべて問題なく理解できたかを確認する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

成績評価における平常点の割合が高いため、普段の授業時に積極的な授業態度が求められる。

科目名：専門中国語／ Advanced Chinese

曜日・講時：後期 火曜日 3 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：張 佩茹

コード：LB42301 科目ナンバリング：LHM-CHN202J 使用言語：2 カ国語以上

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中国語中級読解

2. Course Title (授業題目)：Intermediate Mandarin Chinese Reading

3. 授業の目的と概要：中国語の初級科目で習得した語彙や文法知識を応用し、中級レベルの文章を読み解く練習をする。やや分かりにくい表現があっても、前後の文脈で考えられる解釈を推測する力を磨く。また、辞書で単語の意味を調べる練習もする。能動的に文章を理解する力を身につけることを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course is designed for students to apply the knowledge of vocabulary and grammar that they learned at the beginner's level to read texts at the intermediate level. Even if there are some difficult expressions, students learn how to comprehend them with the help of the contexts. Also, students practice how to use dictionaries to find the appropriate explanation of new words. This course helps students to gain the ability to read and understand texts actively.

5. 学習の到達目標：

現代中国語のエッセイや新聞記事を正確に読み解く。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will develop the ability to read essays or news written in modern Mandarin Chinese with accuracy.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

<授業内容・方法>受講生が指定された箇所をあらかじめ和訳したうえで授業に臨む。授業では意味の確認のほか、関連文法ポイントの練習もする。

<進度予定>

第1回 第七課本文：三種の神器

第2回 第七課練習問題

第3回 第八課本文：宅配員

第4回 第八課練習問題

第5回 第九課本文：結婚相手を探す

第6回 第九課練習問題

第7回 第十課本文：会食

第8回 第十課練習問題

第9回 第十一課本文：証人

第10回 第十一課練習問題

第11回 第十二課本文：部屋を借りる

第12回 第十二課練習問題

第13回 新聞記事の読解練習②

第14回 新聞記事の読解練習③

第15回 期末まとめ

8. 成績評価方法：

平常点：60% (授業態度、小テスト、課題など)

期末試験：40%

9. 教科書および参考書：

<教科書>『大学生のための現代中国 12 話・Ⅲ』杉野元子等、白帝社、2012 年

<参考書>『やさしくくわしい中国語文法の基礎 改訂新版』、守屋 宏則ら著、東方書店、2019 年

10. 授業時間外学習：予習：本文の内容をあらかじめ翻訳しておくこと。

復習：学習した内容をもう一度読み返し、すべて問題なく理解できたかを確認する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

成績評価における平常点の割合が高いため、普段の授業時に積極的な授業態度が求められる。

科目名：専門ドイツ語／ Advanced German

曜日・講時：後期 月曜日 1 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：松崎 裕人

コード：LB41102 科目ナンバリング：LHM-GER201J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ドイツ語読解力の養成とドイツ語基礎の徹底

2. Course Title (授業題目) : Deutsch besser lesen und verstehen

3. 授業の目的と概要：文学理論の入門書を読みながら、ドイツ語文読解力の養成をはかる。

併せて、ドイツ語辞典や補助教材の使用法に習熟する。

その作業を通して、ドイツ語基礎を確かなものとする。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Lesen der literaturtheoretischen Schriften.

Verwendung der wichtigen Materialien.

Ganz Erlernen elementaren Deutsches.

5. 学習の到達目標：

中級ドイツ語の文献を読解することができる。

独和辞典や学習独辞典・特殊辞典を効果的に使うことができる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Der Student kann Mitteldeutsch gut verstehen.

Der Student kann verschiedene Lexika und Materialien richtig benutzen.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1 ガイダンス

2 講読 (1) およびビューチャークンデについて (1)

3 講読 (2) およびビューチャークンデについて (2)

4 講読 (3)

5 講読 (4) および独辞典の活用 (1)

6 講読 (5) および独辞典の活用 (2)

7 講読 (6)

8 講読 (7) とまとめ (1)

9 講読 (8) および事典の活用 (1)

10 講読 (9) および事典の活用 (2)

11 講読 (10)

12 講読 (11) およびランデスクンデについて (1)

13 講読 (12) およびランデスクンデについて (2)

14 講読 (13)

15 講読 (14) とまとめ (2)

8. 成績評価方法：

小テスト 10 回 (50%)、授業での発表 (50%)

9. 教科書および参考書：

テキスト：

J. Culler 『Literaturtheorie. Eine kurze Einführung』(Reclam UB, 2013 [2. Auflage])

4. Kap.: Sprache, Bedeutung und Interpretation より抜粋 (プリント配布)

それ以外のテキストや参考文献については開講時に、および適宜、紹介します。

10. 授業時間外学習：毎回、テキスト 1 頁から 1 頁半ほどの十分な準備が必要です。その段階で不明な箇所を洗い出し、それを授業時に確認し、復習によって確かなものとしてください。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

オフィスアワー等については開講時に案内します。

授業形態の変更により進度や成績評価方法に変更が生じ得ることがあります。

科目名：専門フランス語／ Advanced French

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

semester：3 単位数：2

担当教員：黒岩 卓

コード：LB31402 科目ナンバリング：LHM-FRE201J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：時事フランス語
2. Course Title (授業題目) : Current French
3. 授業の目的と概要：初級文法を修了した学習者を主な対象として、幅広い内容を扱ったフランス語を読む。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Read French texts about various contemporary issues.
5. 学習の到達目標：
各学習者が自分の興味に応じて、さまざまなフランス語を自律的に読めるようになる。
6. Learning Goals (学修の到達目標) : Each learner can read various French texts according to his/her interests.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
(下に記した教科書をベースとします。学習者のレベルに応じて他の文章も用いることがあります。以下の予定は変更されることがあります)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 名前と姓
- 第3回 ジャック・シラク
- 第4回 黄色いヴェスト運動
- 第5回 気候変動
- 第6回 電動キックスケーター
- 第7回 アンヌ・イダルゴ
- 第8回 L214
- 第9回 本物のカマンベール
- 第10回 睡眠不足
- 第11回 ケンゾー
- 第12回 コロナウイルス
- 第13回 学校での携帯電話禁止
- 第14回 共和制と君主制
- 第15回 モンレアル

8. 成績評価方法：

出席点 (100%)

9. 教科書および参考書：

石井洋二郎、ミシェル・サガズ『A la page 2021』、朝日出版社、2021.

10. 授業時間外学習：出席の際の訳読も評価の対象となりますので、毎回の綿密な予習が必須となります。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：専門フランス語／ Advanced French

曜日・講時：後期 水曜日 5講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：メヴェル ヤン

コード：LB43502 科目ナンバリング：LHM-FRE201J 使用言語：英語以外の外国語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Expression française orale et écrite
2. Course Title (授業題目)：Expression française orale et écrite
3. 授業の目的と概要：Le cours prendra plusieurs formes. Il permettra :
 - la lecture de divers types de textes
 - l'audition de documents sonores
 - une analyse de documents visuels
 - des discussions sur des sujets de société
 - des jeux de rôles
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Le cours prendra plusieurs formes. Il permettra :
 - la lecture de divers types de textes
 - l'audition de documents sonores
 - une analyse de documents visuels
 - des discussions sur des sujets de société
 - des jeux de rôles
5. 学習の到達目標：

A l'oral comme à l'écrit, le cours permettra :

 - d'enrichir le vocabulaire et de consolider la syntaxe
 - d'augmenter les capacités d'argumentation
 - d'améliorer les capacités de compréhension

Le cours aidera aussi à découvrir la vie quotidienne en Fr
6. Learning Goals(学修の到達目標)：A l'oral comme à l'écrit, le cours permettra :
 - d'enrichir le vocabulaire et de consolider la syntaxe
 - d'augmenter les capacités d'argumentation
 - d'améliorer les capacités de compréhension

Le cours aidera aussi à découvrir la vie quotidienne en France, ses codes et usages.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1) Introduction
 - 2) Expression orale et écrite
 - 3) Expression orale et écrite
 - 4) Expression orale et écrite
 - 5) Expression orale et écrite
 - 6) Expression orale et écrite
 - 7) Expression orale et écrite
 - 8) Expression orale et écrite
 - 9) Expression orale et écrite
 - 10) Expression orale et écrite
 - 11) Expression orale et écrite
 - 12) Expression orale et écrite
 - 13) Expression orale et écrite
 - 14) Expression orale et écrite
 - 15) Expression orale et écrite
 - 16) Projection de film. Analyse et discussion
8. 成績評価方法：

Une participation à tous les cours est nécessaire. La participation à l'oral compte pour 50%. L'évaluation sera aussi écrite (rédaction de plusieurs textes brefs).
9. 教科書および参考書：

Le manuel sera choisi en fonction du niveau des étudiants présents.
10. 授業時間外学習：Des exercices permettront de revoir du vocabulaire ou des points de grammaire. Il faudra aussi rédiger des textes brefs en relation avec l'objet du cours.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
12. その他：

科目名：漢文講読／ Chinese Classics (Reading)

曜日・講時：前期 金曜日 3講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：菅原 尚樹

コード：LB35302 科目ナンバリング：LHM-LIT226J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：漢文訓読入門（講読編1）

2. Course Title (授業題目)：An introduction to reading classical Chinese texts in Japanese (1)

3. 授業の目的と概要：この授業では資料を講読し、漢文の読解力を向上させることを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course deals with classical literature of China. It also enhances the development of students skills in reading classical Chinese texts in Japanese.

5. 学習の到達目標：

受講生は本講を通じて、教育現場や専門分野に応用しうる漢文訓読の基礎知識を習得できるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will develop the abilities necessary in academic and educational activities, such as reading classical Chinese texts in Japanese.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

【授業内容・方法】

テキストを読解する。出席者とともにテキストの書き下し文と日本語訳を作り、可否を検討する。

【進捗予定】

第1講 資料読解 (1)

第2講 資料読解 (2)

第3講 資料読解 (3)

第4講 資料読解 (4)

第5講 資料読解 (5)

第6講 資料読解 (6)

第7講 資料読解 (7)

第8講 中間試験と解説

第9講 資料読解 (8)

第10講 資料読解 (9)

第11講 資料読解 (10)

第12講 資料読解 (11)

第13講 資料読解 (12)

第14講 資料読解 (13)

第15講 期末試験と解説

8. 成績評価方法：

課題 (60%) 試験 (40%)

9. 教科書および参考書：

教材は授業中に配布する。

References are handed out at the beginning of the course.

10. 授業時間外学習：授業中に指示する課題を行う。

Students are required to submit class assignments.

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：漢文講読／ Chinese Classics (Reading)

曜日・講時：後期 金曜日 3講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：菅原 尚樹

コード：LB45302 科目ナンバリング：LHM-LIT226J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：漢文訓読入門（講読編2）

2. Course Title (授業題目)：An introduction to reading classical Chinese texts in Japanese (2)

3. 授業の目的と概要：この授業では資料を講読し、漢文の読解力を向上させることを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course deals with classical literature of China. It also enhances the development of students skills in reading classical Chinese texts in Japanese.

5. 学習の到達目標：

受講生は本講を通じて、教育現場や専門分野に応用しうる漢文訓読の基礎知識を習得できるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will develop the abilities necessary in academic and educational activities, such as reading classical Chinese texts in Japanese.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

【授業内容・方法】

テキストを読解する。出席者とともにテキストの書き下し文と日本語訳を作り、可否を検討する。

【進度予定】

第1講 資料読解 (1)

第2講 資料読解 (2)

第3講 資料読解 (3)

第4講 資料読解 (4)

第5講 資料読解 (5)

第6講 資料読解 (6)

第7講 中間試験と解説

第8講 資料読解 (7)

第9講 資料読解 (8)

第10講 資料読解 (9)

第11講 資料読解 (10)

第12講 資料読解 (11)

第13講 資料読解 (12)

第14講 資料読解 (13)

第15講 期末試験と解説

8. 成績評価方法：

課題 (50%) 試験 (50%)

9. 教科書および参考書：

教材は授業中に配布する。

References are handed out at the beginning of the course.

10. 授業時間外学習：授業中に指示する課題を行う。

Students are required to submit class assignments.

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：人文情報処理／ Information Processing for the Humanities

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：湊 信吾

コード：LB45207 科目ナンバリング：LHM-HUI201J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：コンピュータを活用したデータ処理と情報発信

2. Course Title (授業題目) : Data processing and information providing with a computer

3. 授業の目的と概要：この授業では Excel などのアプリケーションやプログラミング言語を使用して、データの分析や可視化、情報発信を行えるようになるための基本的な情報処理技術を実習を通して習得してもらうことを目的としている。

以下の予定で講義および実習を行う。内容を変更する場合には授業中に連絡する。

- Excel では表を使用したデータ処理について練習する。
- R を使用したデータ解析の方法、グラフの表現について練習する。
- インターネットで文書を公開するには Web ページを作成する。Web ページを作るためのプログラミング言語として HTML、CSS および JavaScript の基本について学ぶ。
- SQL を使用したデータベースのプログラミングについて練習する。
- プログラミング言語 Python を用いてプログラミングの練習を行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : The objective of the course is to familiarise students with data processing, data visualization, web programming, and python programming.

- Spreadsheets and VBA programming with MS Excel
- Introduction to data processing with R
- Creating MS Powerpoint slides for presentation
- Introduction to relational database and SQL programming
- Web programming with HTML, CSS, JavaScript
- Introduction to Python programming

5. 学習の到達目標：

- Excel を使用した実習により手軽にデータ分析を行うことができるようになる。
- R を使用して基本的なデータ解析やグラフの作成ができるようになる。
- PowerPoint のスライド作成を通して発表用の資料を簡単に作るようになる。
- Web ページを作ることで情報を外部に公開する方法について理解を深める。
- SQL のプログラミングを使用し汎用的にデータベースを操作できるようになる。
- プログラミング言語 Python を使用しプログラミングの楽しさを体験してもらう。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : After completion of the course students are expected to be able to:

- Use Data processing and data visualization with MS Excel and R
- Create effective slides for presentation
- Understand the basic concepts of relational database and SQL programming
- Design web pages with HTML, CSS, JavaScript
- Create basic program in python

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーションとして授業の概要、評価の方法、テキストの閲覧方法、欠席時の対応について説明
2. Excel (表計算の基本)
3. Excel (グラフの作成)
4. Excel (テキストファイルの扱い方)
5. Excel (組み込み関数の応用)
6. Excel (VBA プログラミング)
7. PowerPoint を使用したスライドの作成
8. R を利用したデータ解析とグラフの作成
- 9～12. HTML、CSS、JavaScript を使用した Web ページの作成 (その 1～その 4)
13. SQL を使用したデータベースの操作
- 14、15. プログラミング言語 Python を使用したプログラミング (基本とライブラリの利用)

授業は前半、実習を交えながら解説を行う。後半、課題に取り組んでもらう。

8. 成績評価方法：

毎回、レポートを提出してもらう。レポートの内容および提出日時により評価を決定する。

9. 教科書および参考書：

毎週、インターネット経由でテキストを公開する。参考書についてはテキストおよび授業で紹介する。

1 0. 授業時間外学習：＜事前学習＞毎週、インターネット経由でテキストを公開するのでそれを見て予習をしてもらいたい。また、テキスト中の語句でわからないところがあれば参考書などを利用して勉強しておいてほしい。
＜事後学習＞実習後もう一度振り返り、再度試してみることで確実に授業で行ったことを身につけることができる。また、授業中に紹介した参考書でさらに勉強することで知識を深めることができる。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

1 2. その他：

連絡用のメールアドレス、テキスト公開用の URL についてはオリエンテーション時に説明する。